

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成25年度

在学生・教職員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

平成25年度KTC総合アンケート調査結果について

学校のプログラムの成果と効果を継続的に観察し、その機能している強い部分を把握した上でそれらを強化し、同時にあまり機能していない弱い箇所も認識し改善していくことは重要です。学校はその出資者である学生と保護者、そして二次的な出資者ともいべき卒業生の雇用者、教職員、そして社会全般に対しても一連のサービスを提供していると言えます。学校が用意する教育サービスの本質とクオリティーを評価するために、様々な種類のデータを収集し比較することが必要となってきます。よって金沢高専にとって、毎年実施されているKTC総合アンケートはひとつの鍵となる資料になります。

この調査の結果は必ずしも金沢高専でのプログラムの教育成果を直接評価するものではありませんが、学生と教員における様々な受け止め方や、彼らが抱えている印象を示してくれる重要な指標であると言えるでしょう。主観的ではあるものの、満足感や達成感は重要な目標であり、またプログラムそして職場としての学校のクオリティーを指し示すものであります。

したがって、私たちは一般的な満足度を評価しようと試みており、またその満足度をより上げている要因、あるいは下げている要因となっているプログラムや施設の側面を把握することにも取り組んでいます。しかしながら、私たちが提示している「2020 Vision」の目標としては、満足だけには留まらずさらに先を目指しています。4つの主な目標としては、1)アカデミアを育てる、つまり学生と教員を含めた学習者のための協力コミュニティを育てる、2)学校生活を彩りあるものにする、つまり私たちが提供する教育体験をできるだけ魅力的にそして刺激的なものにするよう努める、3)個々の学生の唯一の個性やオリジナリティーを評価し育てていく、そして4)革新的な考え方をする人物を教育していく。これらの目標に向かって進歩しているかを見極めるために、そしてその目標により近づいていく方法を探るために、私たちはここにいただいたデータを注意深く分析していかなければいけません。

ご協力下さいました関係者の皆様に感謝の意を表したいと思います。

平成26年6月

金沢工業高等専門学校
校長 ルイス・バークスデール

全体概略

■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で11回目となる。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施しており、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、平成20年度からは年度末の実施に戻している。

■調査の概略

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とし、すべて無記名式とした。	
総回答数	564サンプル	
調査方法と回収数	1年生～5年生	・有効回答数 1年生:112サンプル、2年生:120サンプル、3年生:108サンプル、4年生:101サンプル、5年生:75サンプル ・各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成26年2月7日)
	卒業生	・今回は実施せず。次回は平成28年度の予定。
	教職員	・有効回答数 48サンプル ・各教職員に配布し、回収した。(配布:平成26年2月3日、回収:平成26年2月22日)
	企業担当者	・今回は実施せず。次回は平成28年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

■集計に関して

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
呼称に関して	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度の1年生から学科構成が「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報工学科」となっており、これまでの「電気情報工学科」「機械工学科」「国際コミュニケーション情報工学科」とは異なっているが、学科別集計、部会別集計では同系列の学科を合わせて集計を行った。 学科別に時系列の集計を行う場合には、同系列の学科を合わせて、「電気情報・電気電子」「機械」「国情・グローバル」という3つの学科として比較を行った。

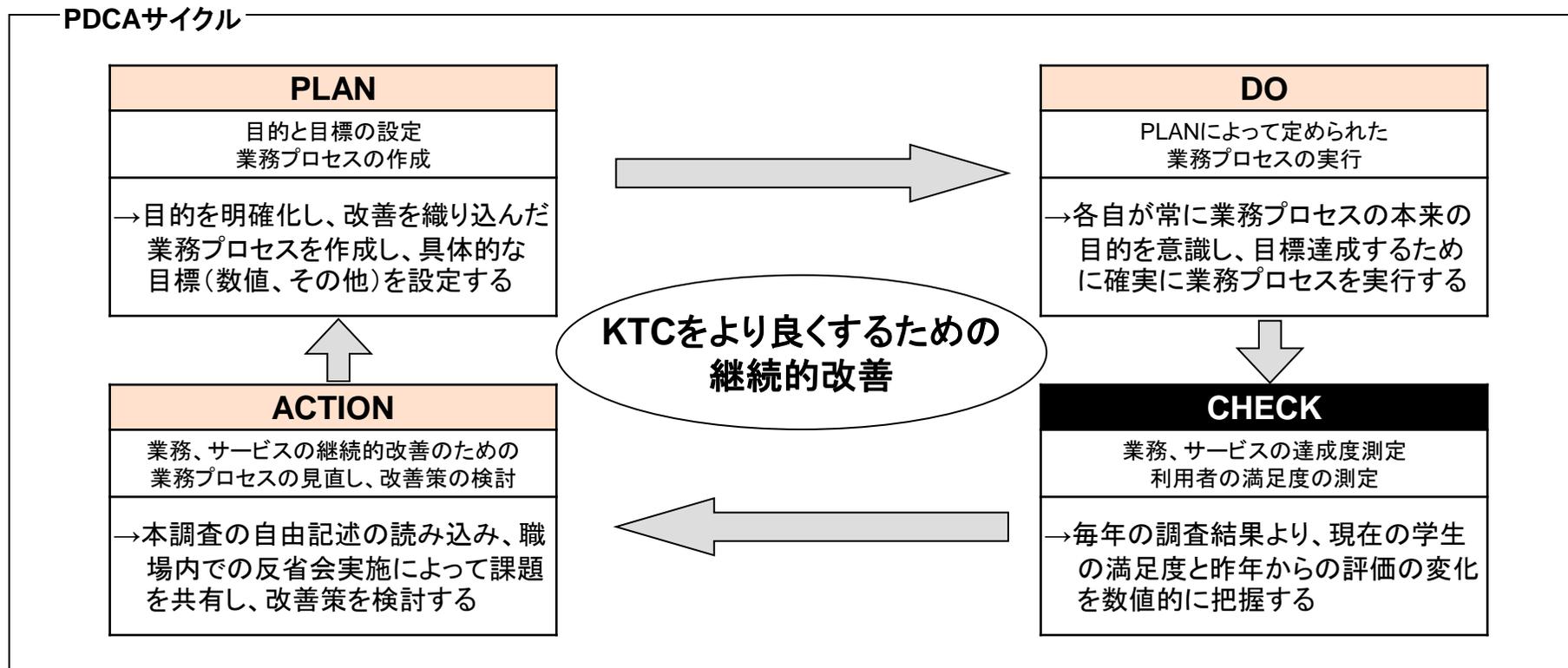
■回答者数に関して

学年	平成25年度 回答者 (今回分)	平成24年度 回答者	平成23年度 回答者	平成22年度 回答者	平成21年度 回答者	平成20年度 回答者	平成19年度 回答者	平成18年度 回答者	平成17年度 回答者数	平成16年度 回答者数	平成15年度 回答者数
1年	112人	130人	134人	115人	81人	110人	92人	121人	122人	135人	140人
2年	120人	128人	113人	79人	104人	105人	108人	117人	130人	135人	127人
3年	108人	93人	63人	80人	92人	95人	88人	113人	113人	98人	113人
4年	101人	76人	91人	102人	103人	103人	114人	121人	113人	109人	121人
5年	75人	85人	98人	99人	96人	111人	124人	105人	101人	116人	129人
卒業生	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	73人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	77人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	66人
教職員	48人	55人	55人	62人	53人	59人	52人	50人	48人	56人	50人
企業担当者	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	71人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	36人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	65人
合計	564人	567人	698人	537人	529人	696人	578人	627人	627人	649人	811人

PDCAサイクルに関して

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、CHECKステップに位置づけられる。



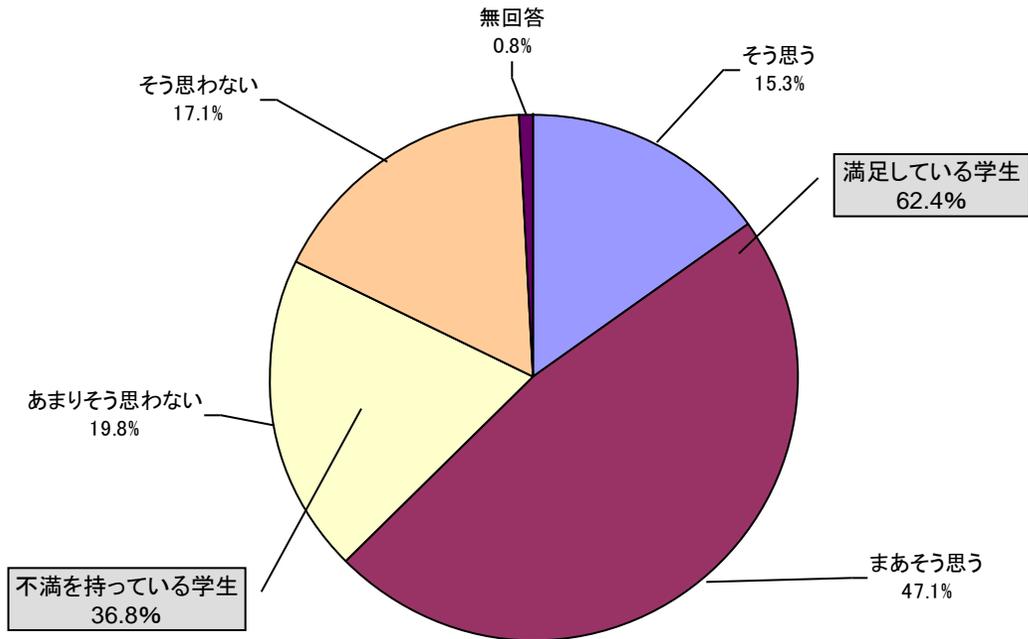
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考として位置づけられるものである。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

金沢高専の総合的な満足度

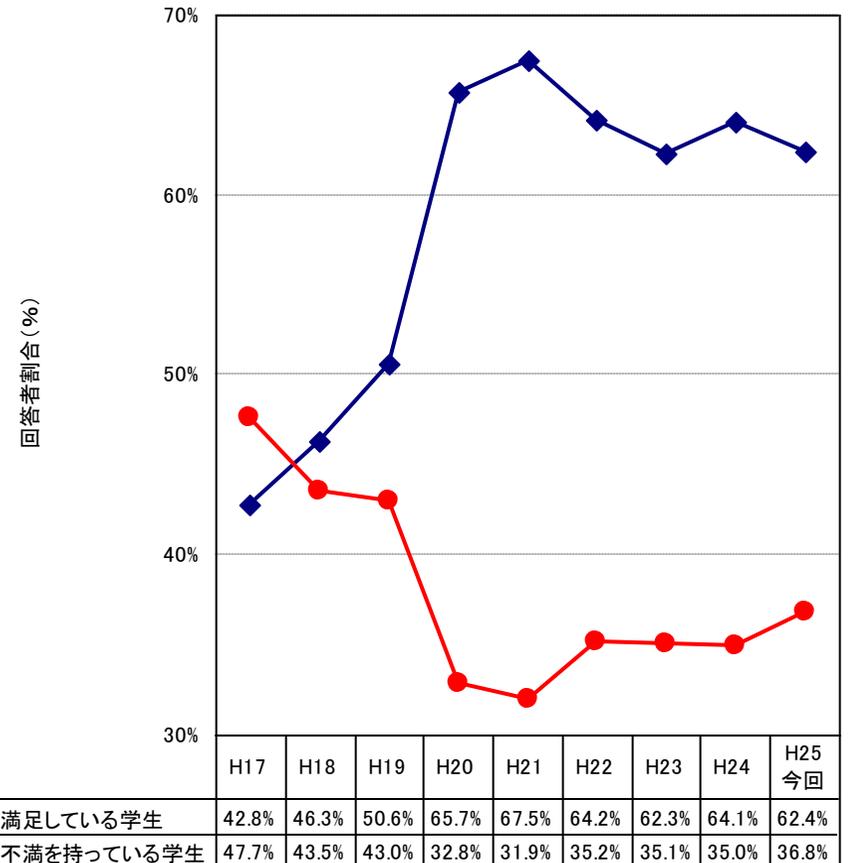
■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」という問いに対しては、「そう思う」が15.3%、「まあそう思う」が47.1%であり、合わせると62.4%が満足しているという回答であり、不満という回答は36.8%であった。
- 年度別の比較は「満足している学生」と「不満を持っている学生」の割合の変化を折れ線グラフで見ている。今回のH25は、「満足している学生」がH24よりわずかに低下していた。ただし、減少幅は少なく、H22からほぼ横ばいの状態となっていた。

■総合的に見て金沢高専に満足していますか？（在校生のみ）



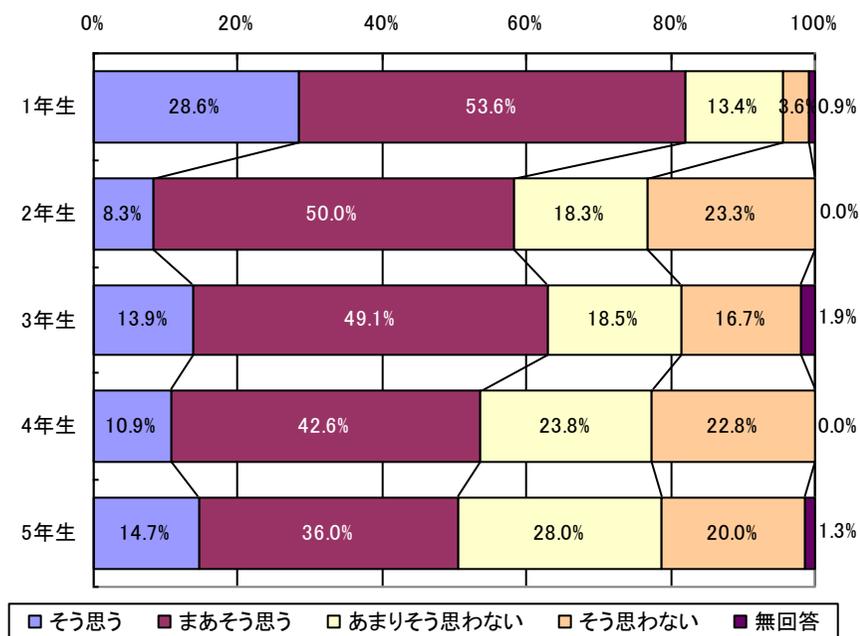
■金沢高専の総合的満足度 年度別比較



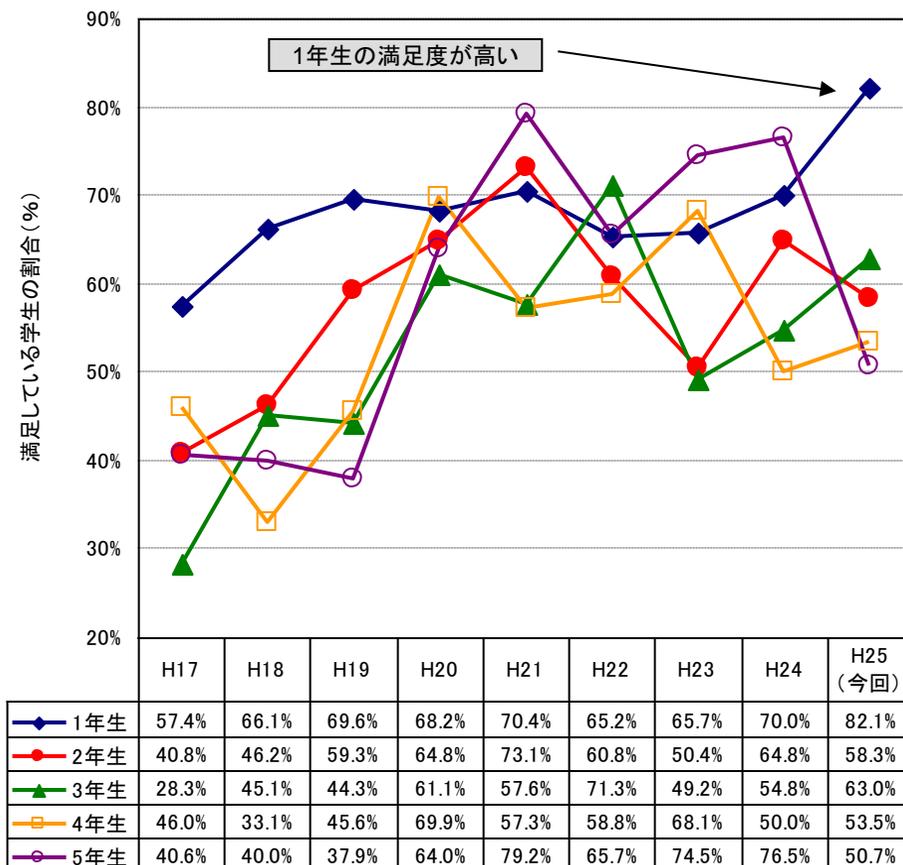
■総合的満足度の学年別比較

- 「高専の総合的満足度」を学年別に比較したところ、肯定的な意見は「1年生」で82.1%と最も多かった。また、「1年生」は「そう思う」という回答が28.6%と多く、他の学生との差が大きかった。
- 「1年生」に次いで肯定的な意見が多かったのは、「3年生」の63.0%、「2年生」の58.3%であった。一方、満足度が最も低かったのは「5年生」の50.7%であったが、「そう思う」という回答だけを見ると14.7%であり、「1年生」に次ぐ高さであった。
- 学年別の満足度を年度別に見たところ、「1年生」は前回と比べて大幅に満足度が上がり、これまでで最高となっていた。そして、「3年生」「4年生」も前回は上回っていた。
- 前回は下回っていたのは「5年生」と「2年生」であったが、「5年生」は前回は25.8ポイントと大きく下回っていた。

■金沢高専の総合的満足度 学年別比較



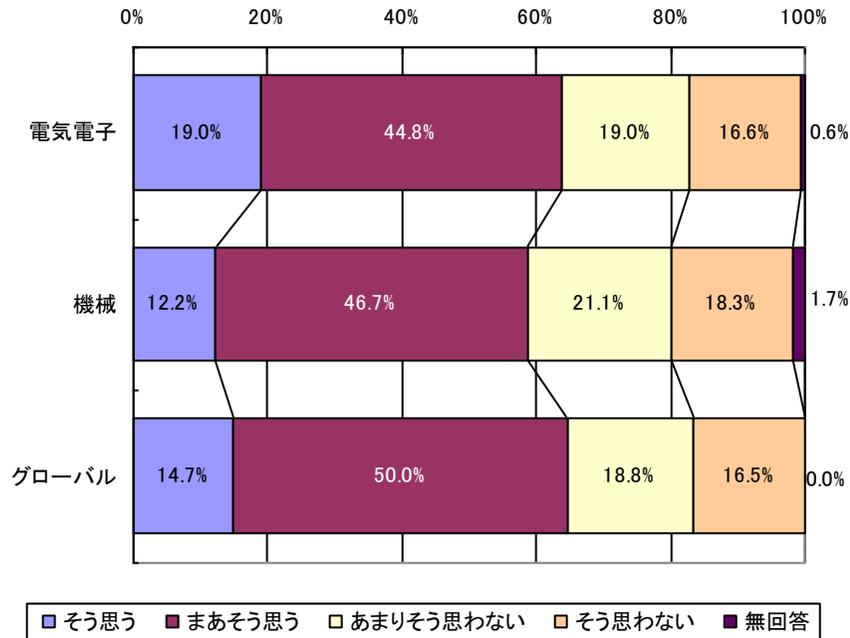
■金沢高専の総合的満足度 学年別・年度別比較



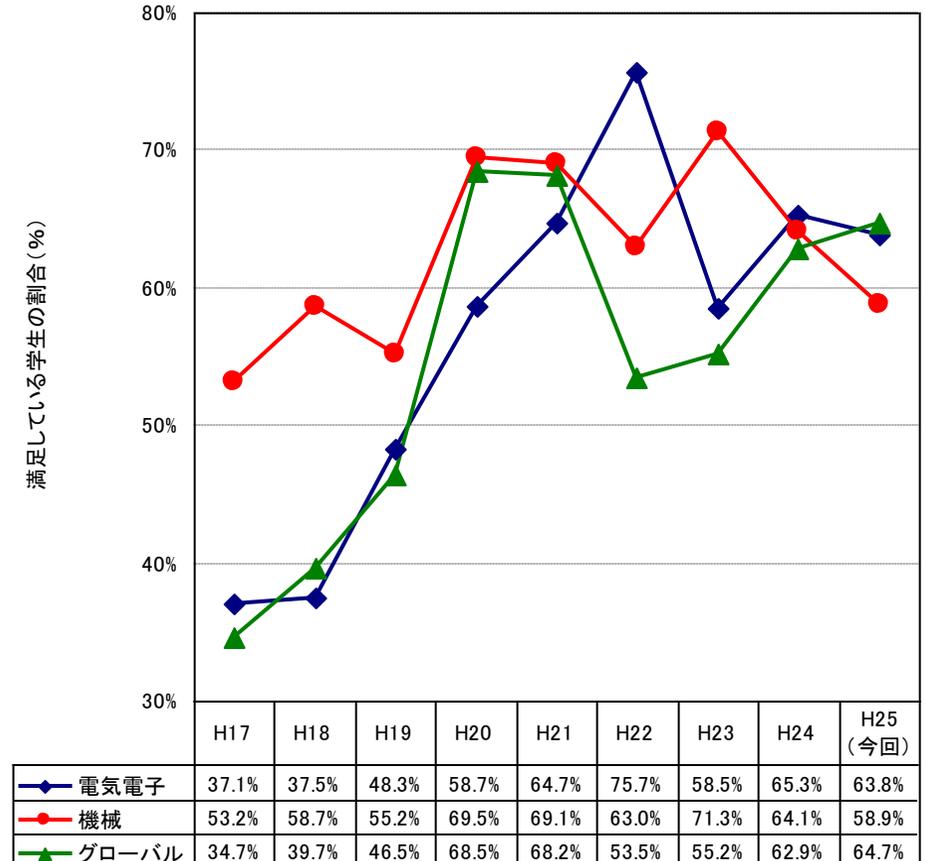
■総合的満足度の学科別比較

- 「高専の総合満足度」を学科別に比較したところ、それほど大きな差は見られなかったが、「グローバル」で64.7%が満足という意見であり、次いで「電気電子」が63.8%、「機械」が58.9%と続いていた。
- 学科別の経年変化を見ると、「グローバル」だけがわずかに前年を上回っていた。「グローバル」はH22から継続的に満足度の向上が続いており、初めて3学科の中で最も高い満足度となっていた。
- 「電気電子」と「機械」は前年を下回っていた。特に「機械」はH23から低下が続き、初めて3学科の中で最も満足度が低くなっていた。

■金沢高専の総合的満足度 学科別比較(在学生のみ)



■金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較

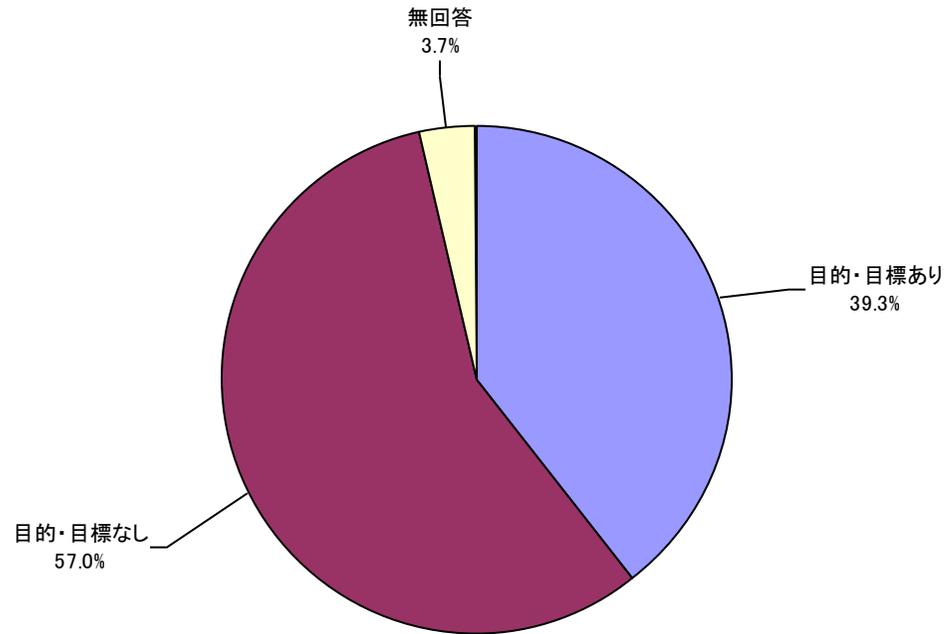


目的・目標に関する意識に関して

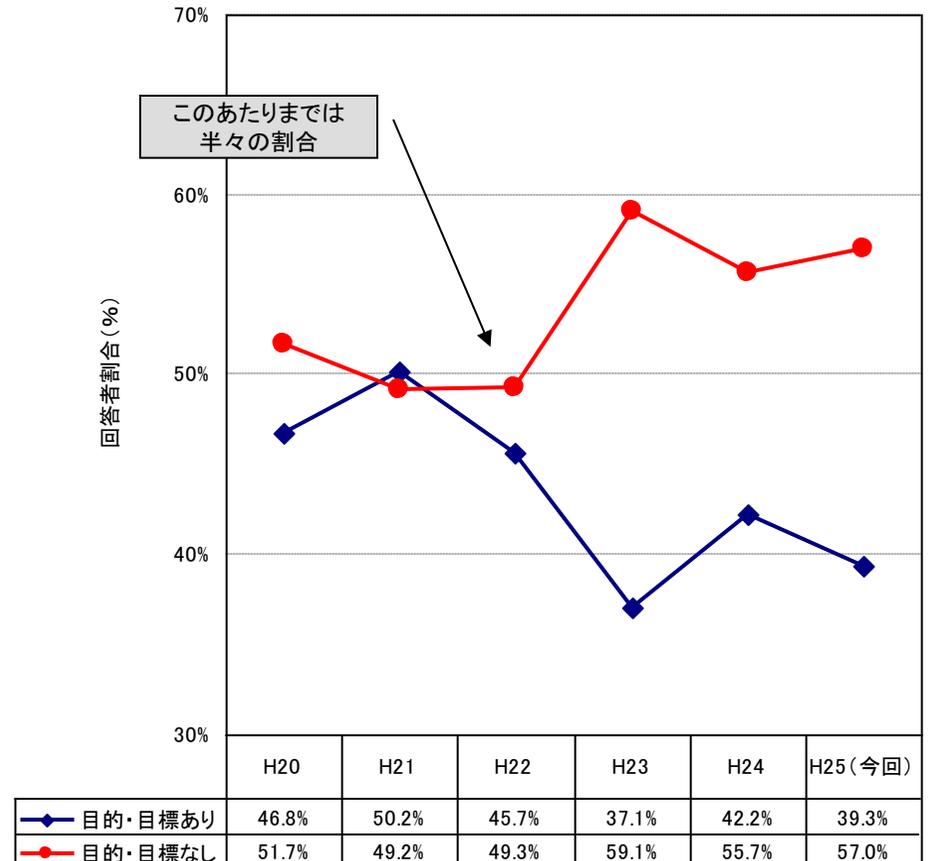
■在学中の「目的・目標」の意識

- 「高専生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」という問いに対しては、39.3%が「目的・目標あり」、57.0%が「目的・目標なし」で、目的・目標のない学生が多く、その差は17.7ポイントであった。
- 経年変化を見ると、H20からH22までは「目的・目標あり」と「目的・目標なし」が半々程度であったが、その後は「目的・目標なし」の方が増えてきており、今回は「目的・目標なし」が前回より1.3ポイント増加しており、H23に次ぐ多さであった。

■在学中の「目的・目標」の意識



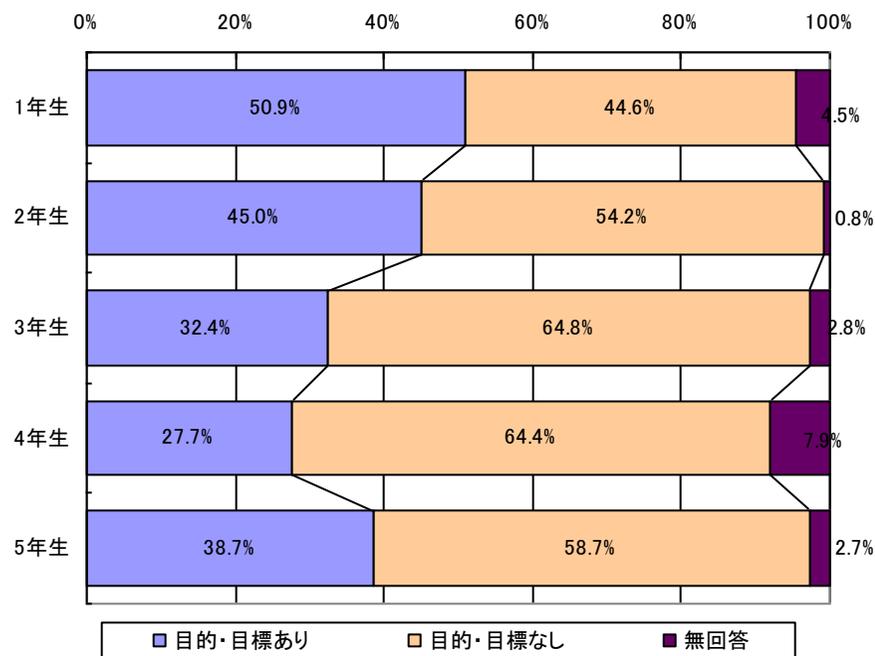
■在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較



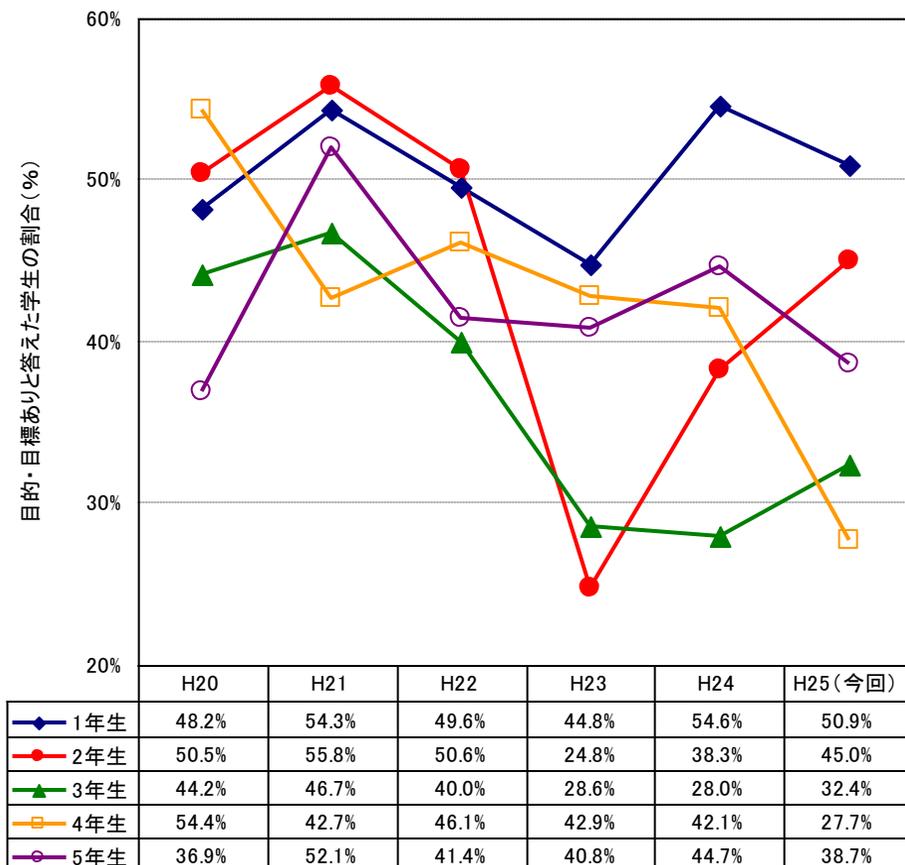
■「目的・目標」の意識の学年別比較

- 「目的・目標」の有無を学年別に比較したところ、「1年生」では「目的・目標あり」が50.9%であり、「目的・目標なし」を6.3ポイント上回っていた。「目的・目標あり」は「2年生」で45.0%、「3年生」で32.4%、「4年生」で27.7%と、「4年生」までは学年が上がるにつれ減少しており、「4年生」では「目的・目標なし」の方が36.7ポイント上回っていた。そして、「5年生」では「2年生」に次いで多く、「目的・目標あり」が38.7%であった。
- 学年別の年度別比較を見ると、H20からH22あたりまでは学年間の差がそれほど大きくなかったが、それ以降は学年の差が広がっていた。
- 個別に見ると、「1年生」は年度が変わっても「目的・目標あり」は50%前後が多めであり、「5年生」ではH22以降は40%前後、「3年生」ではH23以降は30%前後で安定していた。一方、「2年生」と「4年生」は年度によって大きな変化が見られた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学年別比較



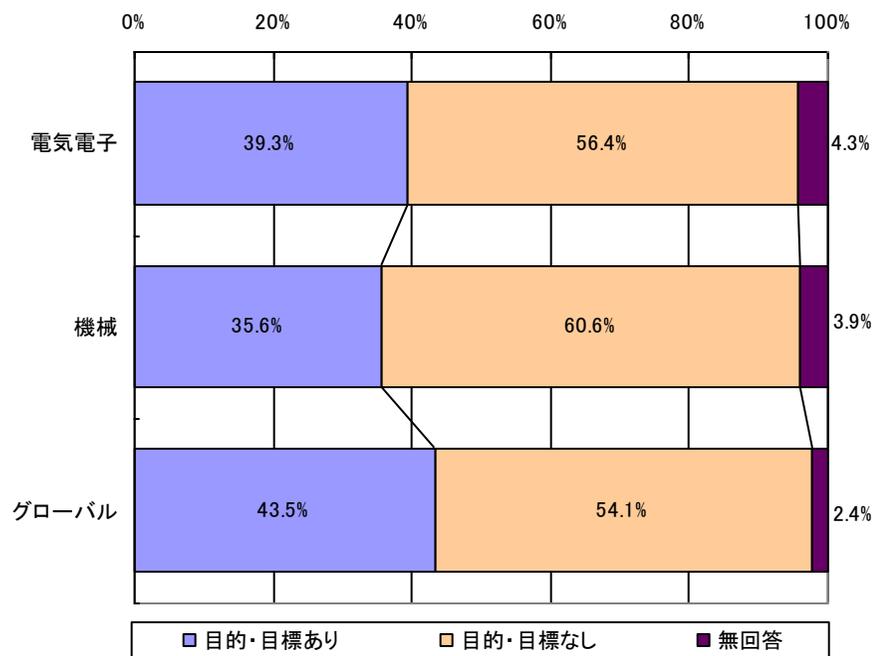
■在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



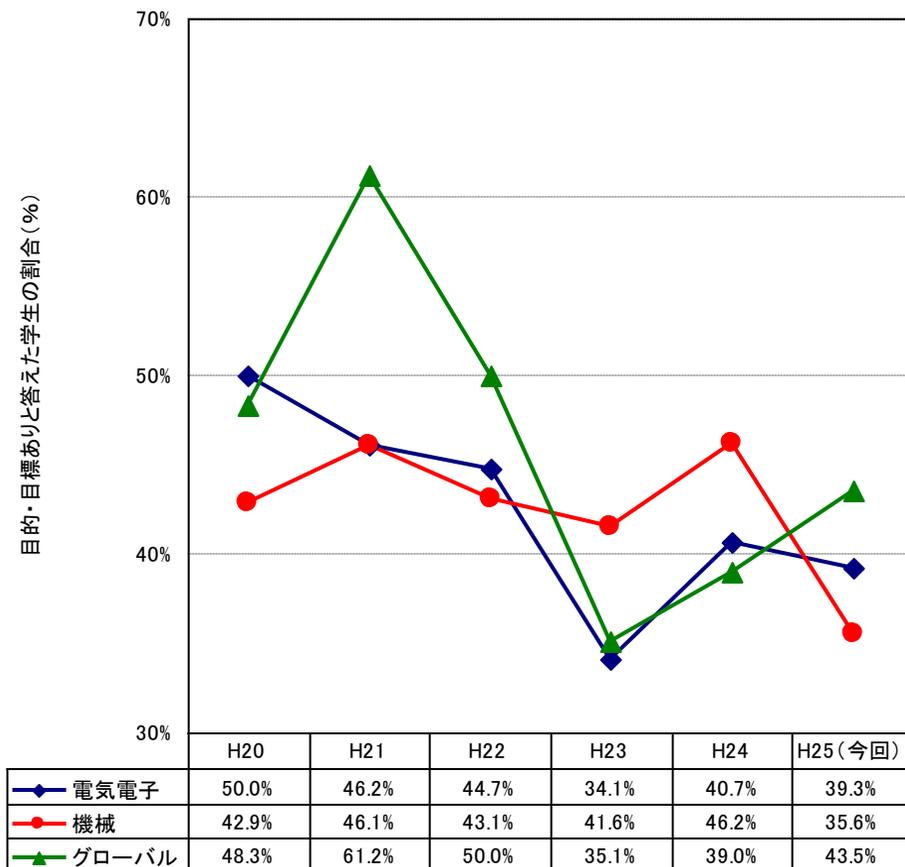
■「目的・目標」の意識の学科別比較

- 「目的・目標」の意識は、学科間の大きな差は見られなかったが、「目的・目標あり」は「グローバル」で43.5%と最も多く、「電気電子」で39.3%、「機械」で35.6%と続いていた。
- 学科別の年度別比較を見ると、「機械」は「目的・目標あり」の割合が前回より10.6ポイント低下して今までで最も少なくなっていた。そして、「電気電子」もわずかではあるが前回より低下し、「グローバル」はH23から継続的に増加が続いていた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学科別比較



■在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較

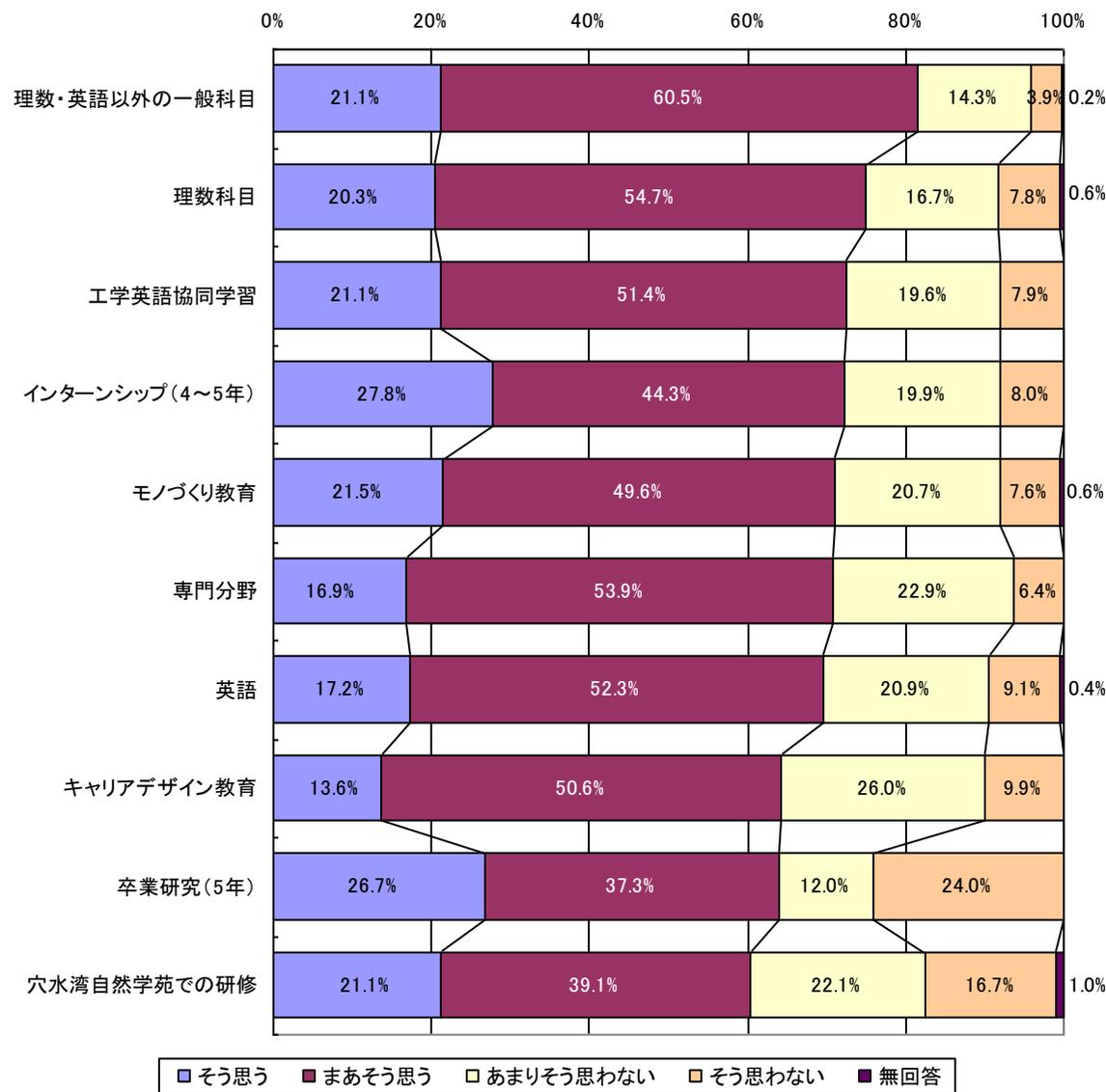


授業に関して

■授業に対する評価

- 授業に対する満足度について、肯定的な意見の合計を見たところ、「理数・英語以外の一般科目」が81.6%で、最も多かった。
- 上記に次いで「理数科目」が75.0%、「工学英語協同学習」が72.5%と続いていた。
- 「そう思う」という回答だけで見ると、「インターンシップ」で27.8%、「卒業研究」で26.7%と高かった。この2つの科目は「4年生」「5年生」など、対象となる学年が限られるが、一部の学生の満足度が高い科目と言える。ただし、「卒業研究」では「そう思わない」が24.0%と非常に多いという特徴も見られた。
- 最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」であり、肯定的な意見は60.2%にとどまっていた。

■授業に対する満足度（在学生のみ）

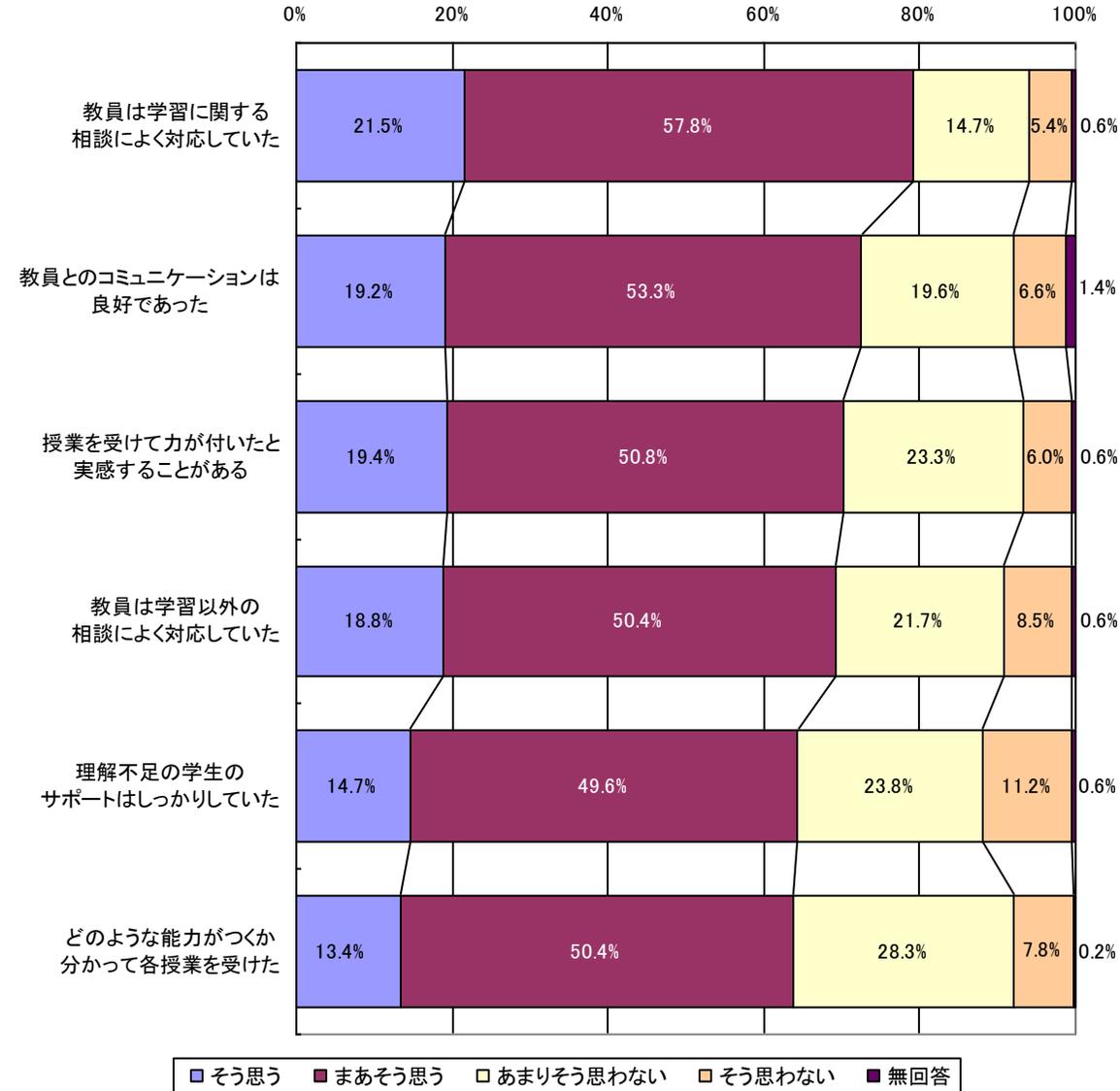


教員および学習支援に関して

■教員および学習支援の満足度

- 教員および学習支援の満足度に関しては、「教員は学習に関する相談によく対応していた」で肯定的な意見が79.3%と最も多かった。
- 上記に次いで、「教員とのコミュニケーションは良好であった」で72.5%、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」で70.2%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」であり、肯定的な意見は63.8%であった。そして、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」も肯定的な意見が64.3%と少なめであった。

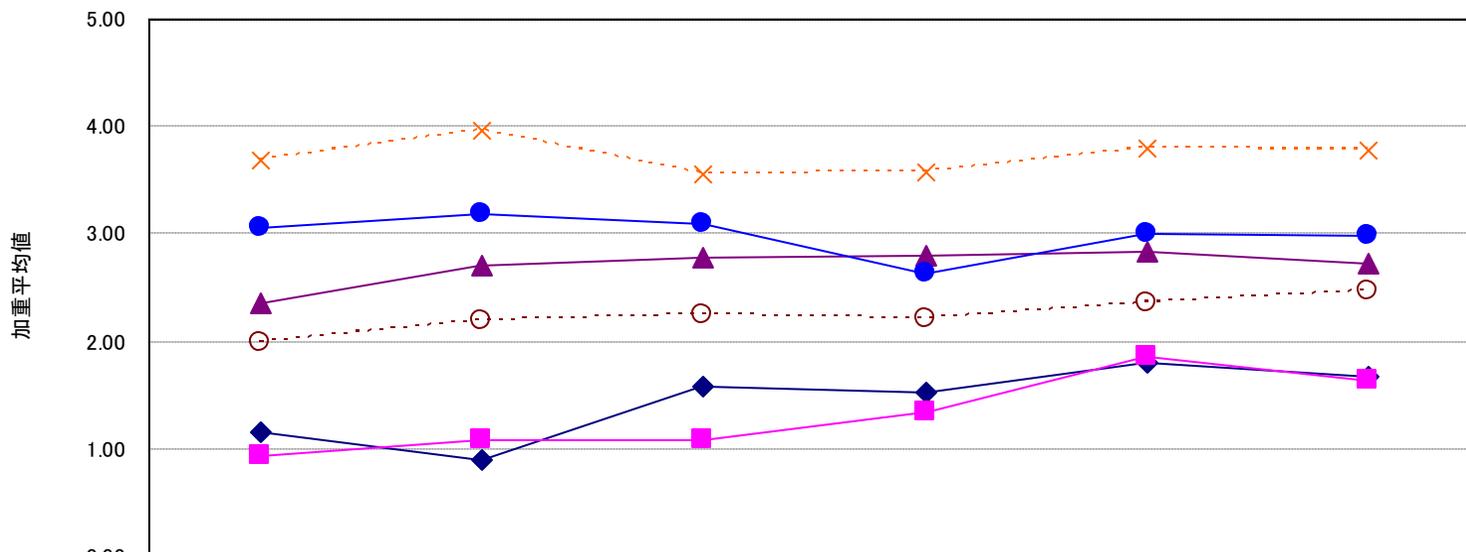
■教員および学習支援の満足度(在学生のみ)



■教員および学習支援の満足度の年度別比較

- 教員および学習支援の満足度の年度別比較を見ると、全体的にH20から横ばいが続いており、大きな変化は見られなかった。
- 項目別に見ると「教員は学習以外の相談によく対応していた」はわずかに前年を上回っていたが、その他の項目はすべて、わずかではあるが前年を下回っていた。

■教員および学習支援評価 年度別比較

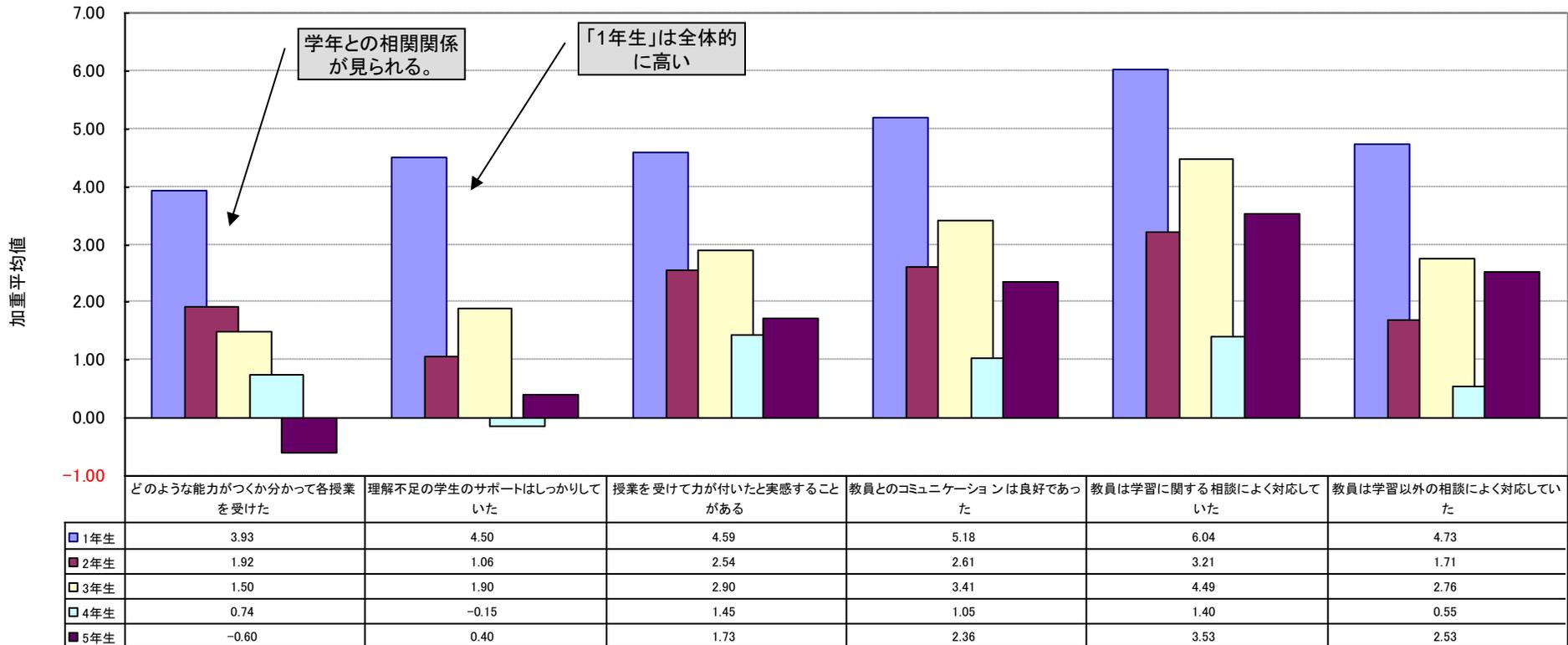


	H20	H21	H22	H23	H24	H25(今回)
◆ どのような能力がつか分かって各授業を受けた	1.17	0.90	1.59	1.52	1.81	1.67
■ 理解不足の学生のサポートはしっかりしていた	0.95	1.09	1.10	1.34	1.86	1.65
▲ 授業を受けて力が付いたと実感することがある	2.36	2.71	2.79	2.81	2.84	2.73
● 教員とのコミュニケーションは良好であった	3.06	3.19	3.09	2.63	3.00	2.99
× 教員は学習に関する相談によく対応していた	3.69	3.96	3.55	3.58	3.79	3.78
○ 教員は学習以外の相談によく対応していた	2.00	2.20	2.25	2.21	2.36	2.48

■教員および学習支援の満足度の学年別比較

- 教員および学習支援の満足度を学年別に比較したところ、すべての項目で「1年生」の満足度が最も高かった。
- 「1年生」に次いで「3年生」で評価が高いものが多く、中でも「教員は学習に関する相談によく対応していた」の高さが目立っていた。
- 一方、「4年生」はほとんどの項目で最も低く、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」はマイナス評価であり、「教員とのコミュニケーション」「教員の学習に対する相談」「教員の学習以外の相談」など、教員に対する評価の低さが目立っていた。
- 学年との相関関係が見られたのは「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」だけであり、高学年ほど満足度が低下し、「5年生」ではマイナス評価となっていた。

■教員および学習支援評価 学年別比較

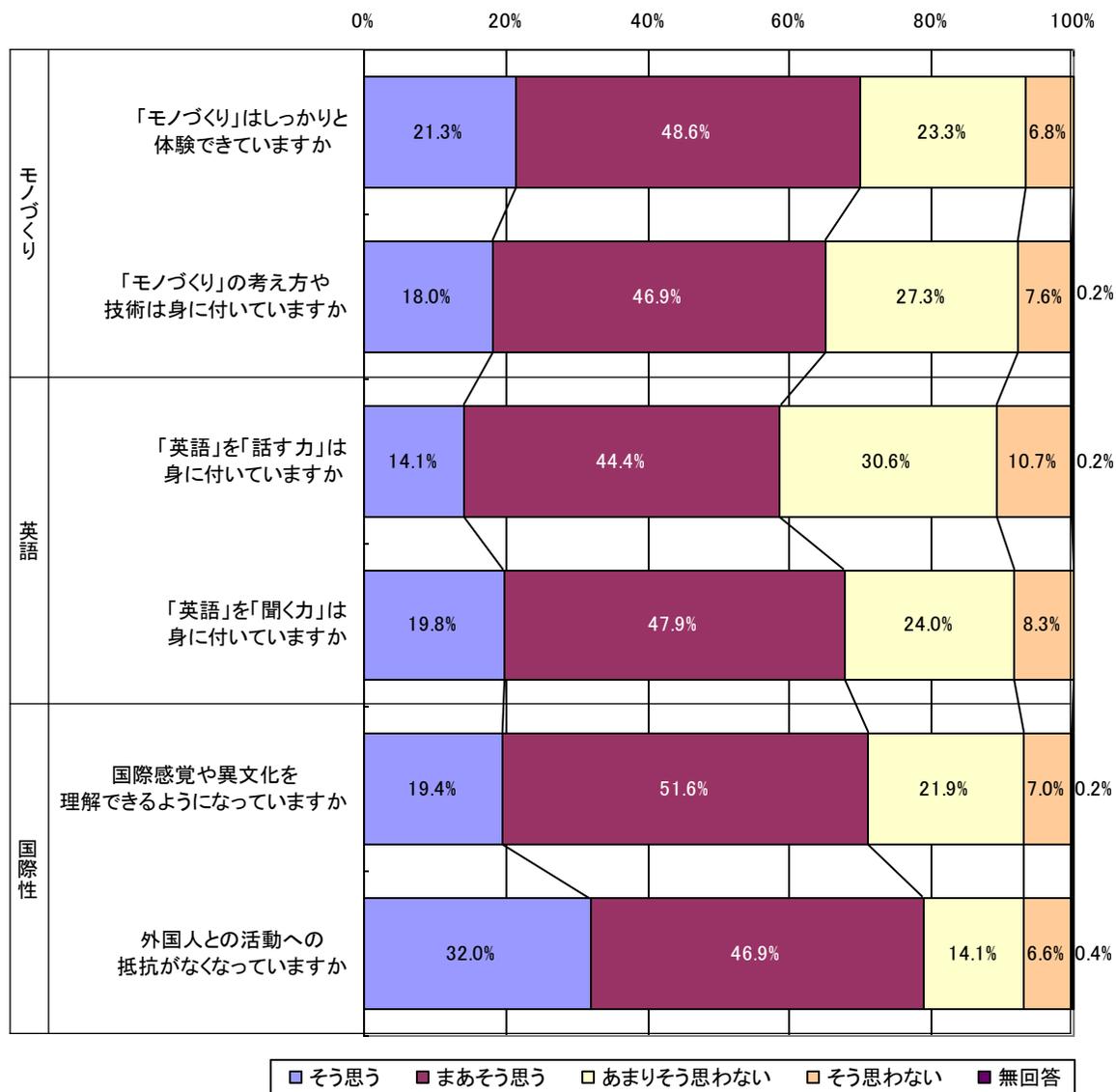


「モノづくり」「英語」「国際性」に関して

■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価

- 金沢高専の特徴である「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価を確認した。
- 「モノづくり」に関して「しっかりと体験できていますか」という質問に対しては、「そう思う」が21.3%、「まあそう思う」が48.6%であり、合わせると69.9%が肯定的意見であった。そして、「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」という問いでは64.9%が肯定的な意見であった。
- 「英語」に関しても2つの質問をしているが、「話す力」については58.5%が、「聞く力」については67.7%が身に付いていると答えており、「話す力」の方に課題があるようであった。
- 「国際性」に関して、「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」という質問に対しては、71.0%が肯定的な意見であった。そして、「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」については78.9%が肯定的な意見であり、ほぼ8割の学生が外国人に対して抵抗がないと答えていた。

■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価（在学生のみ）



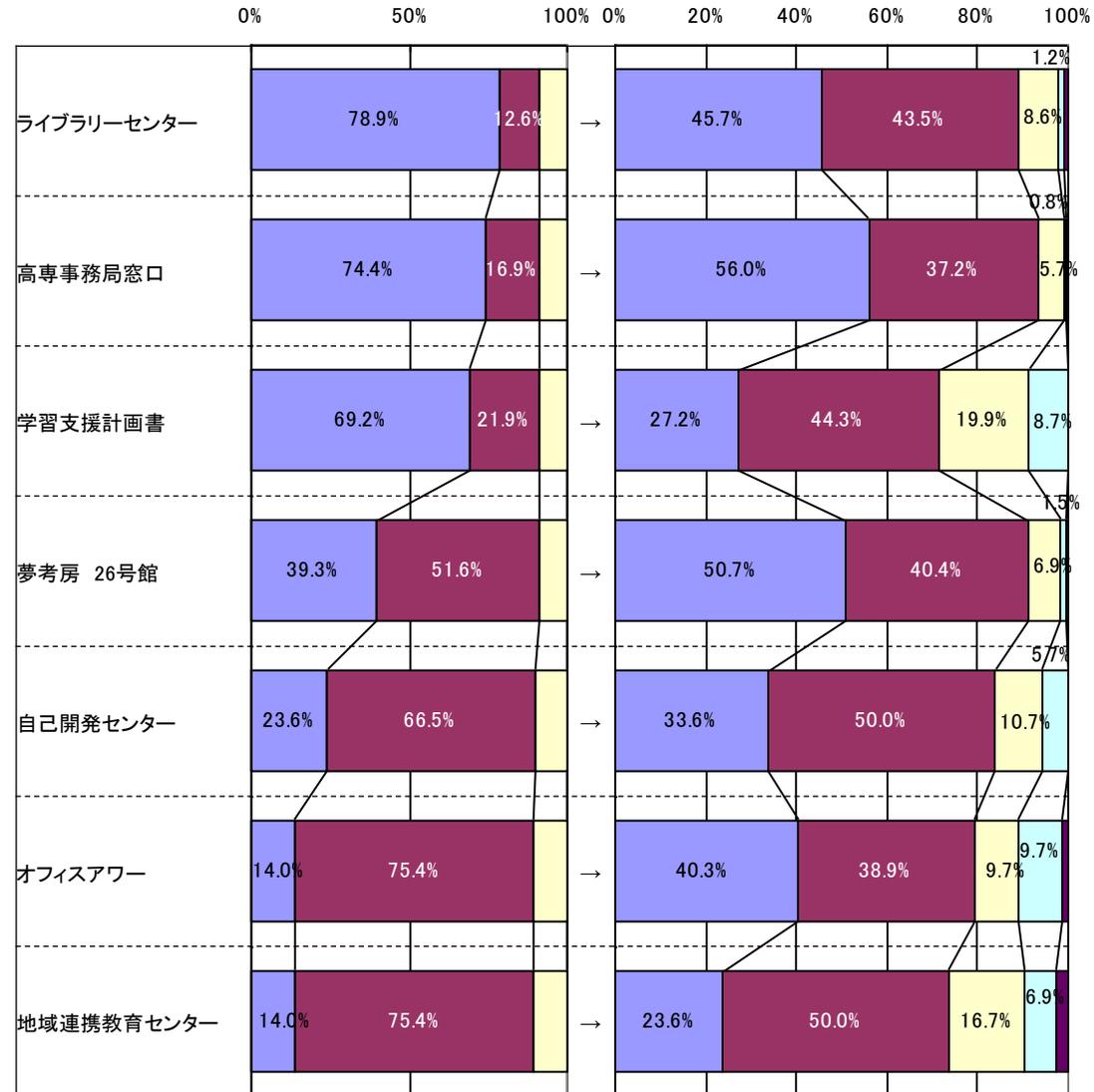
学生サポートに関して

■学生サポートの満足度

- 学生サポートは、各サポートの利用の有無を聞き、利用経験者に満足度を聞いている。グラフは利用者の多いものから順に並べている。
- 利用者が最も多かったのは「ライブラリーセンター」であり、78.9%が利用経験があると答えていた。次いで「高専事務局窓口」が74.4%、「学習支援計画書」が69.2%と続いていた。
- 利用者が最も少なかったのは「オフィスアワー」と「地域連携教育センター」であり、いずれも利用経験ありという回答は14.0%であった。
- 満足度は全体的に高めで、「役立った」と「まあ役立った」を合わせると、すべてのサポートに対して7割以上が満足しているという回答であった。
- 最も満足度が高かったのは「高専事務局窓口」の93.2%であり、わずかな差で「夢考房26号館」の91.1%が続いていた。そして、「ライブラリーセンター」も89.2%と高かった。
- 「学習支援計画書」は利用経験者は多かったものの満足という回答は71.5%と最も低く、課題が感じられた。
- 一方、「オフィスアワー」は利用経験者が少なかったものの、満足という回答は79.2%と高く、利用者からの評価は高いようであった。同様に「自己開発センター」の満足度も83.6%と高かった。

■学生サポートの利用の有無(左グラフ)と満足度(右グラフ)

(※満足度は利用者からのみの結果)



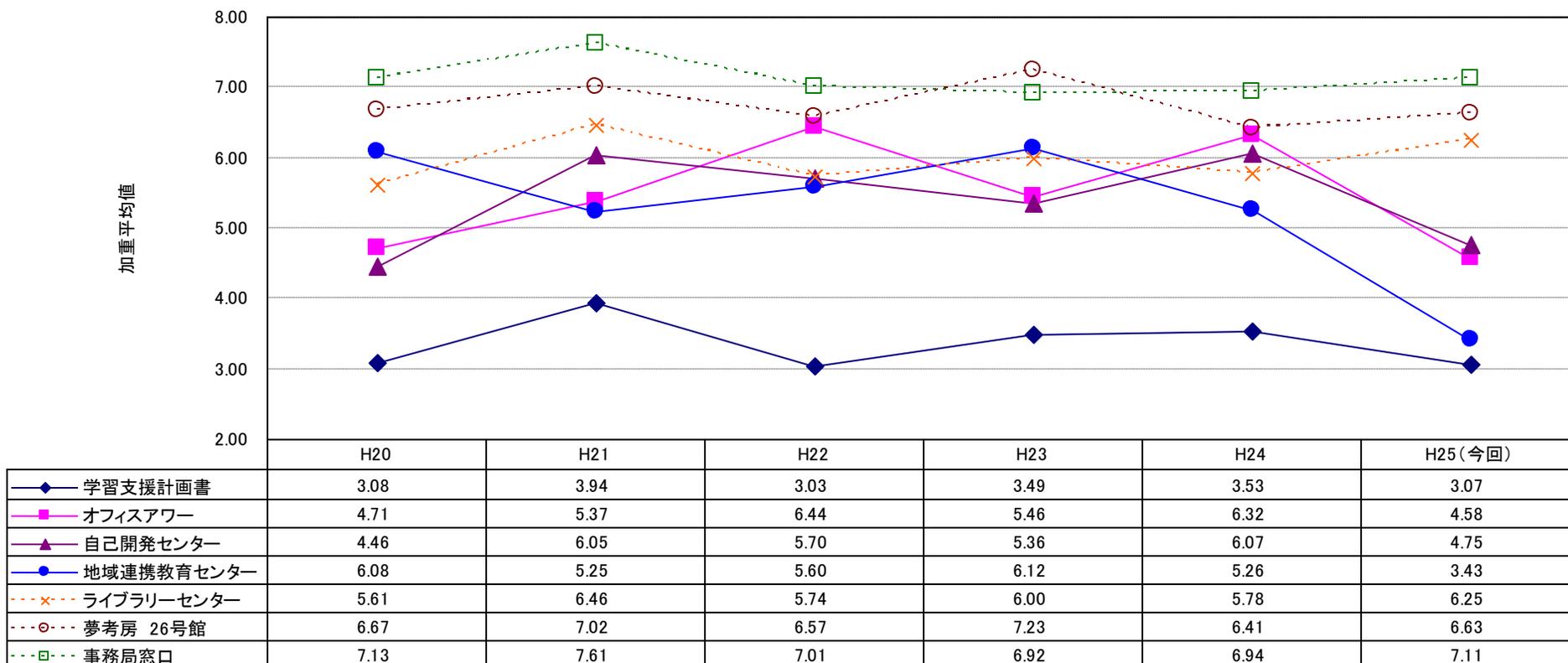
■あり ■なし □無回答

■役立った ■まあ役立った □あまり役立たない
□役立たない ■無回答

■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の年度別比較

- 学生サポートの年度別比較は利用経験者のみの満足度で比較を行った。
- 全体の傾向を見るとH24まではすべての項目で横ばいの傾向が続いていたが、今回は「オフィスアワー」「自己開発センター」「地域連携教育センター」の満足度の低下が大きく、「自己開発センター」はH20に次ぐ低さとなり、「オフィスアワー」と「地域連携教育センター」は今までで最も低いレベルとなっていた。また、「地域連携教育センター」はH24にも満足度が低下しており、今回も大きく落ち込んでいた。
- 「事務局窓口」「夢考房26号館」「ライブラリーセンター」の3つはいずれもわずかではあるが前回は上回っており、横ばい傾向が続いていた。そして、「学習支援計画書」は前回よりわずかに低下していたが、横ばいとも言える満足度となっていた。

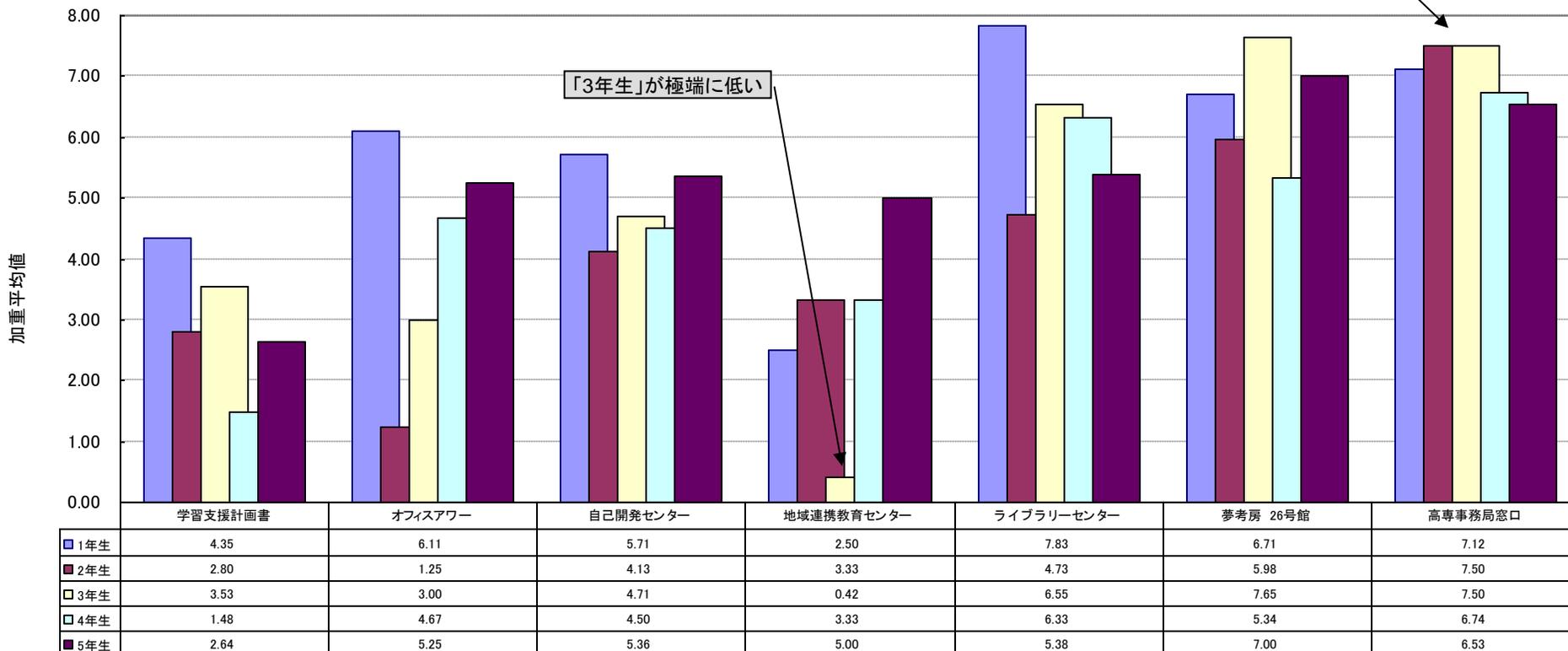
■ 学生サポート評価 年度別比較



■学生サポートの満足度(利用者のみ)の学年別比較

- 学生サポートの評価を学年別に比較したところ、いくつかの項目で「1年生」の高さが目立っていた。
- 「1年生」は「学習支援計画書」「オフィスアワー」「自己開発センター」「ライブラリーセンター」の満足度が最も高かった。一方、「地域連携教育センター」の満足度がやや低めであった。
- 「2年生」は目立って高いものではなく、「オフィスアワー」の低さが目立っていた。「3年生」は「夢考房26号館」の満足度が最も高く、その他の項目も低くはなかったが、「地域連携教育センター」の満足度が極端に低いという特徴が見られた。
- 「4年生」は「学習支援計画書」が低かったものの他に目立った特徴は見られず、「5年生」は「地域連携教育センター」が最も高い点が目立っていた。
- 「高専事務局窓口」は他の項目と比べると学年による差が少なかった。

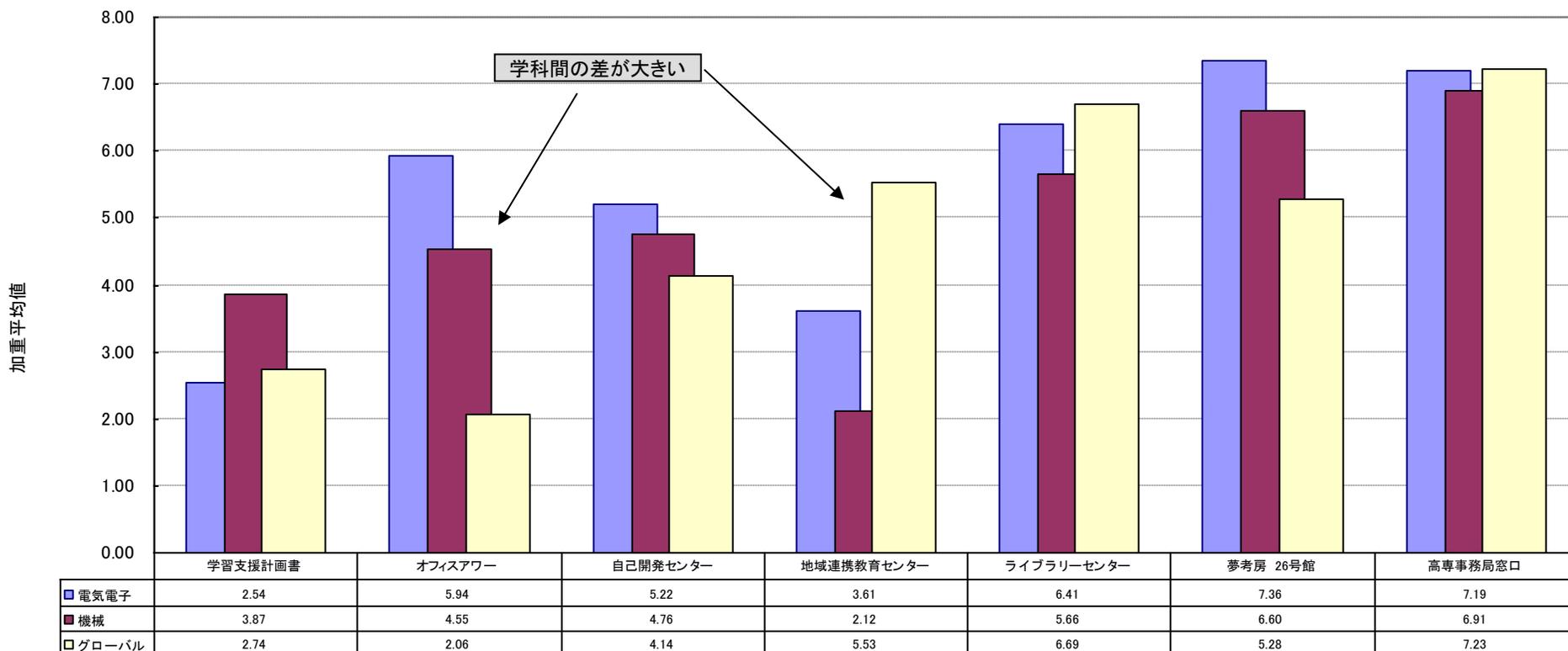
■学生サポート評価 学年別比較



■学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

- 学生サポートの満足度を学科別に比較したところ、特定の学科が高いといった傾向は見られなかった。
- 全体で特徴的であったのは「オフィスアワー」と「地域連携教育センター」で、この2つでは学科間の差が大きく、評価が異なっていた。一方、「高専事務局窓口」は学科による差が非常に少なく、評価が一致していた。
- 「電気電子」は「オフィスアワー」の満足度が目立って高く、「自己開発センター」「夢考房26号館」の満足度も高めであった。
- 「機械」は「学習支援計画書」の高さが目立っており、「地域連携教育センター」が低かった。
- 「グローバル」は「地域連携教育センター」の高さが目立っており、「オフィスアワー」の満足度が非常に低かった。また、「夢考房26号館」の満足度も低めであった。

■学生サポート評価 学科別比較

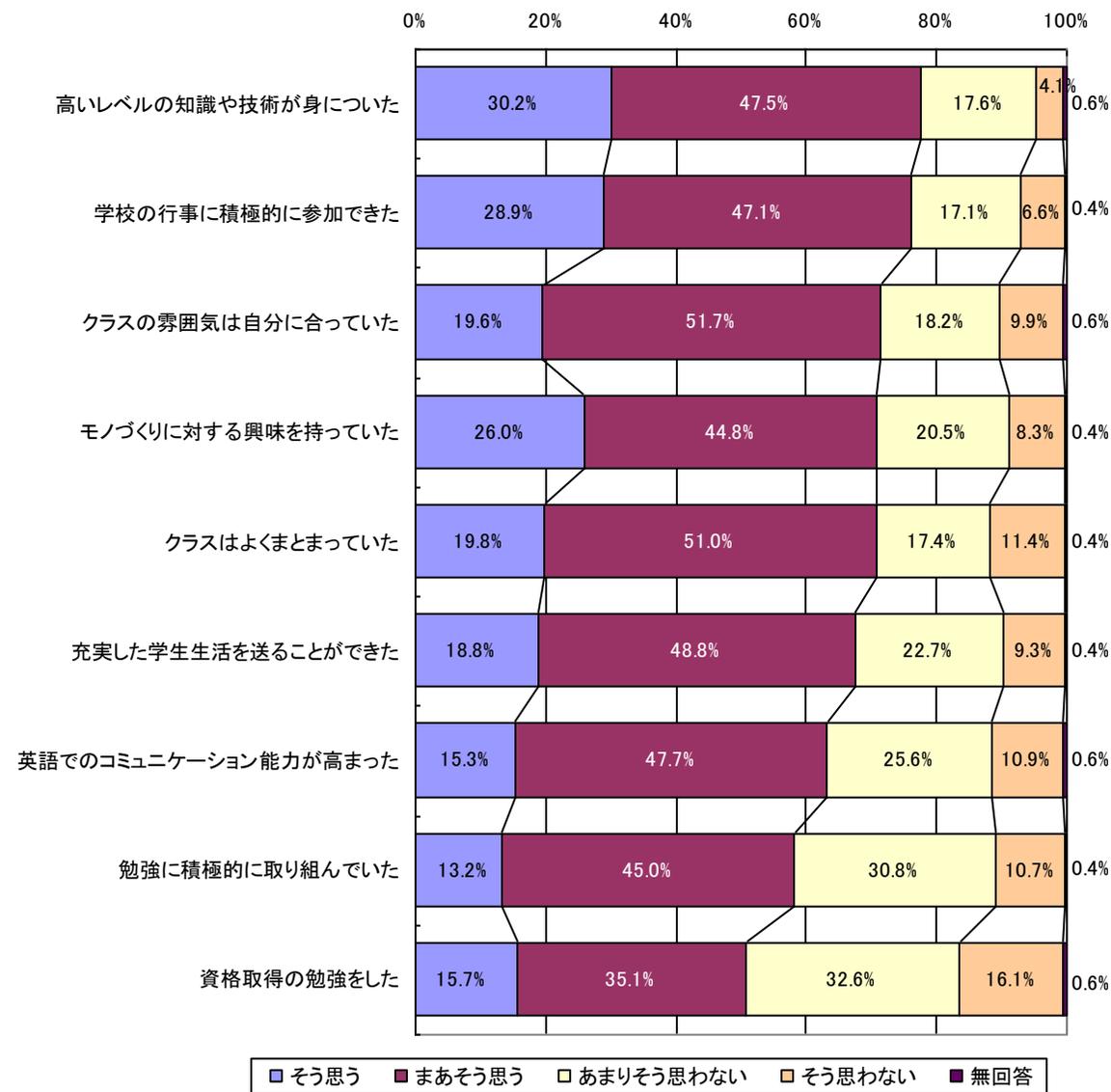


学校での過ごし方に関して

■学校での過ごし方

- 学校での過ごし方に関してはカリキュラムの効果や学生生活のことなどに関して9項目の質問を行っているが、「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較したところ、「高いレベルの知識や技術が身についた」で肯定的な意見が77.7%と最も多かった。
- 次いで「学校の行事に積極的に参加できた」が76.0%、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が71.3%、「モノづくりに対する興味を持っていた」と「クラスはよくまとまっていた」が70.8%と続いており、ここまでの5項目は肯定的な意見が7割を超えていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「資格取得の勉強をした」であり、肯定的な意見は50.8%にとどまっていた。そして、「勉強に積極的に取り組んでいた」では58.2%であり、資格取得や勉強に対して、やや消極的な姿勢もうかがえた。

■学校での過ごし方(在学生のみ)

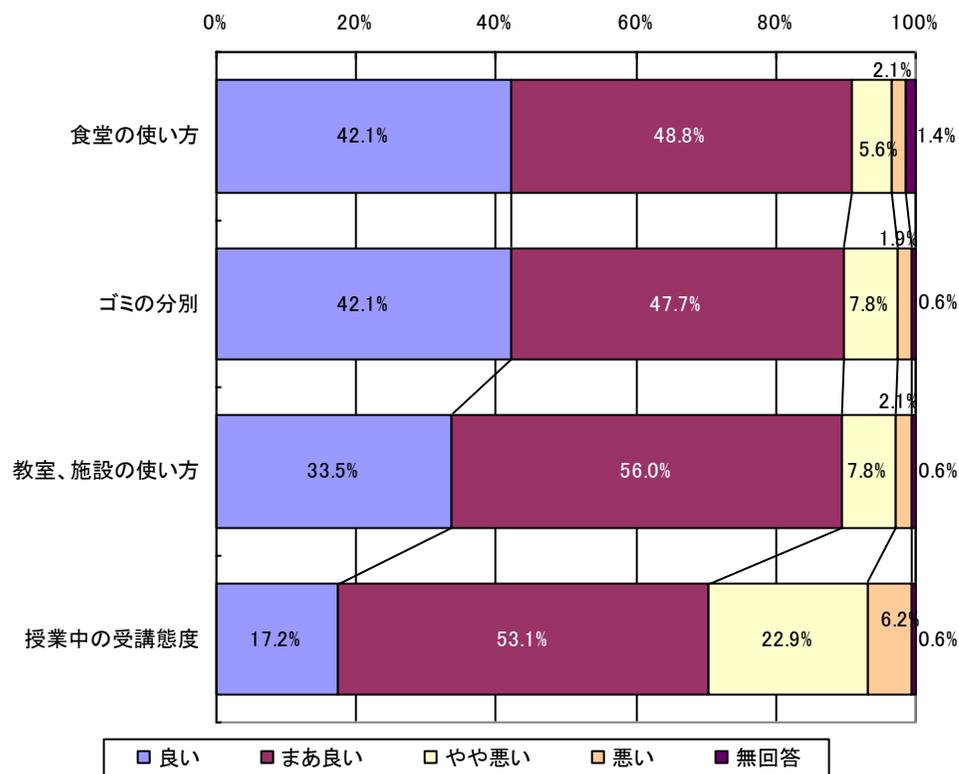


学内での自分自身のマナーに関して

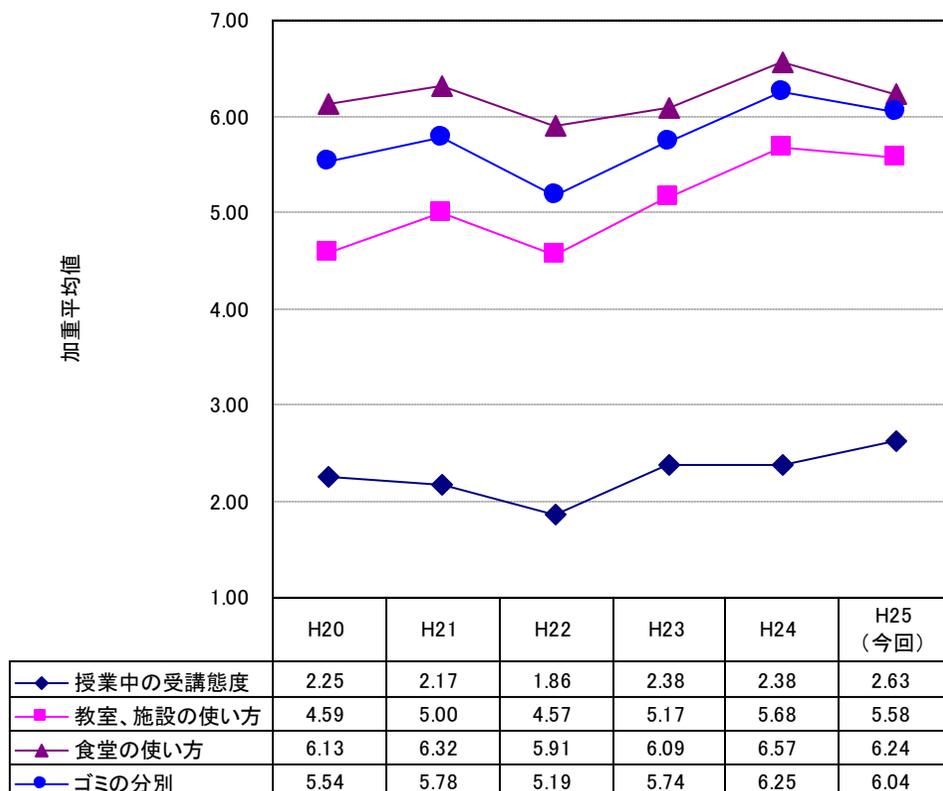
■学内での自分自身のマナー

- 学内でのマナーに関する質問は、学生に対して「自分自身のマナーをどう思うか？」と自己評価を聞いている。
- 「良い」と「まあ良い」の合計で比較すると、「食堂の使い方」は90.9%が肯定的な意見であった。そして、「ゴミの分別」では89.8%、「教室、施設の使い方」では89.5%が肯定的な意見であり、ほとんどの学生は問題ないと考えているようであった。
- 自己評価が最も低かったのは「授業中の受講態度」であったが、肯定的な意見は70.3%と高く、問題があると感じている回答は29.1%にとどまっていた。
- 年度別の比較を見たところ、「授業中の受講態度」だけが前回をわずかに上回ってこれまでで最も高くなっていた。一方、他の3項目は前回をわずかに下回っていた。

■学内での自分自身のマナー（在学生のみ）



■学内での自分自身のマナー 年度別比較

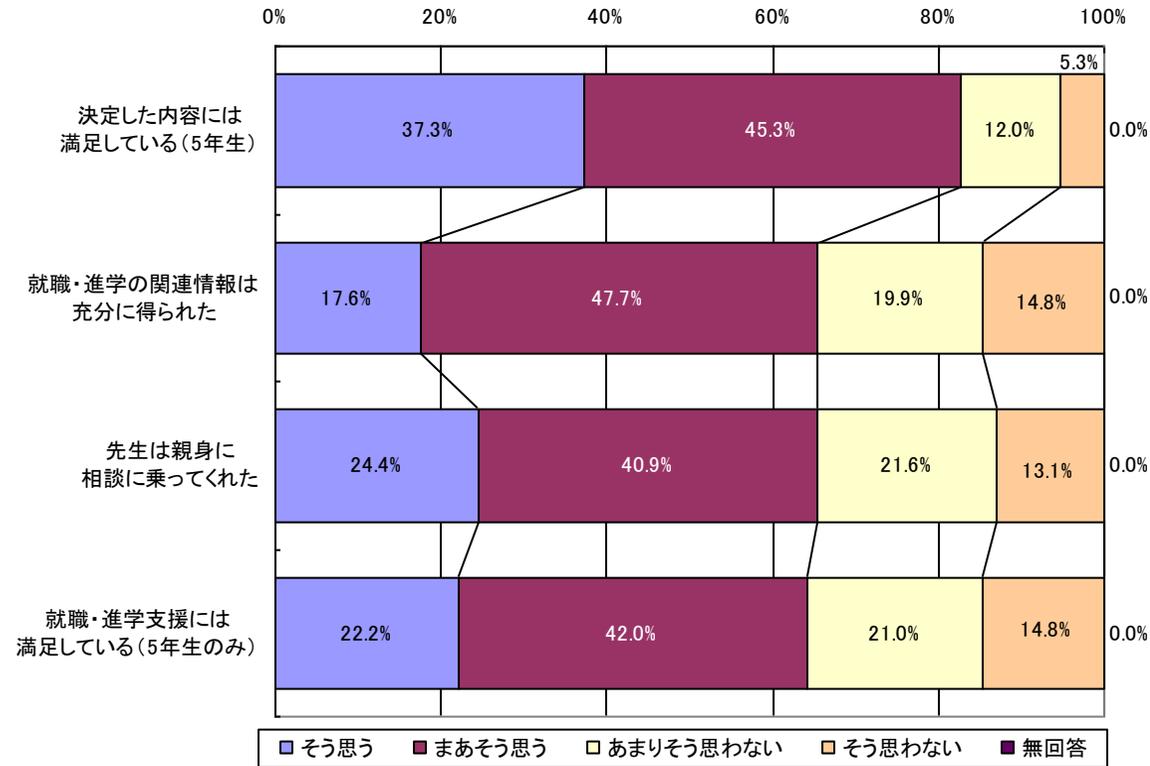


就職・進学支援に関して

■就職・進学支援に関して

- 就職・進学支援に関する質問は4年生と5年生だけに聞いている。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、5年生だけに聞いた質問ではあるが、「決定した内容には満足している」の満足度が最も高く、82.6%が肯定的な意見であった。
- 上記に次ぐ3項目の満足度はほぼ同じであり、各々の肯定的な意見は「就職・進学の関連情報は十分に得られた」では65.3%、「先生は親身に相談に乗ってくれた」では65.3%、「就職・進学支援には満足している」では64.2%となっていた。
- 「就職・進学支援には満足している」は5年生だけに聞いた質問であるが、35.8%が不満という回答をしており、この点は今後の課題になると思われる。

■就職・進学支援の評価(4年生、5年生のみ)

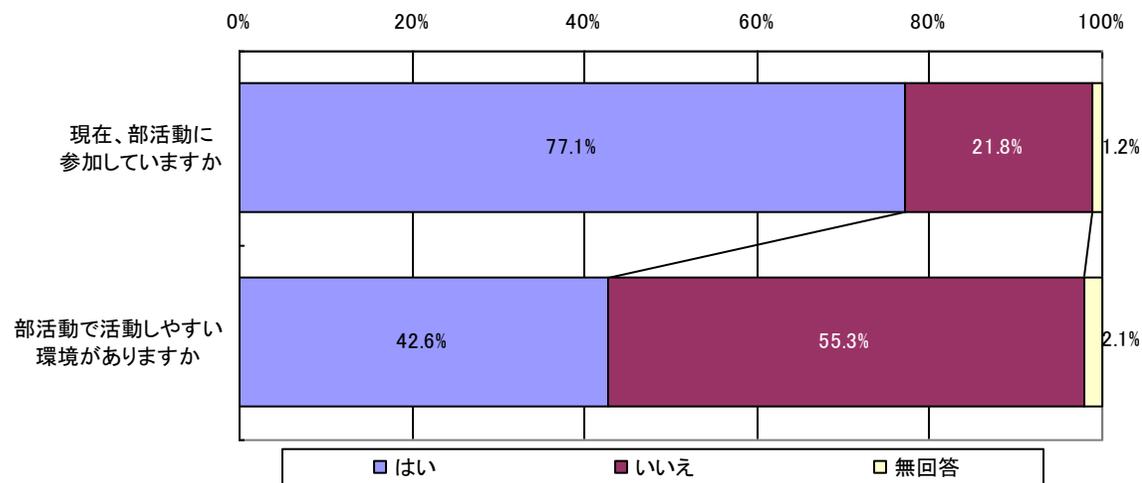


部活動に関して

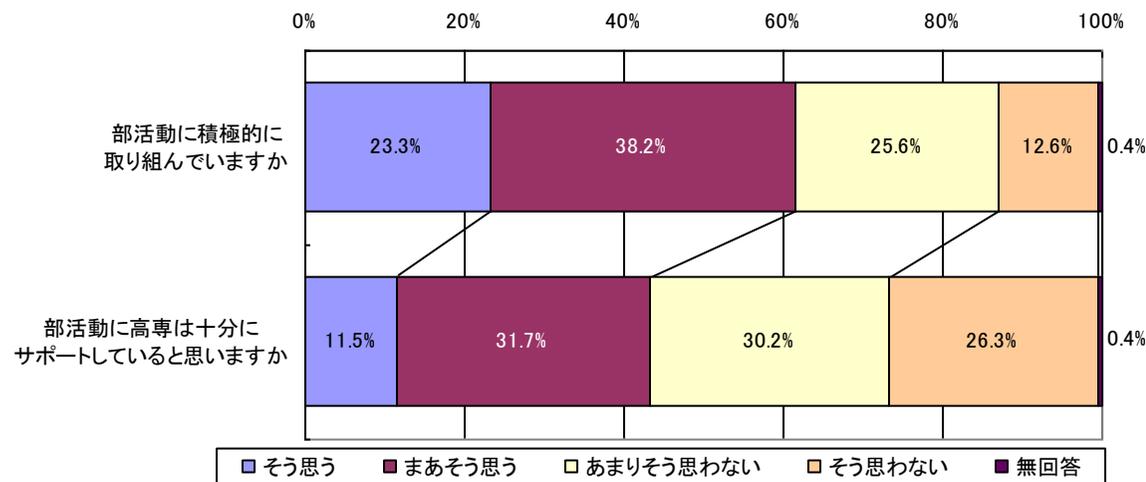
■部活動の現状に関して

- 部活動に関する質問は「1年生」から「3年生」を対象とした。「部活動の現状に関して」は1～3年生全員に聞き、「現状評価」については部活動参加者だけを集計の対象としている。
- 「現在、部活動に参加していますか」という質問には77.1%が「はい」と答えていた。そして、「部活動で活動しやすい環境がありますか」には42.6%が「はい」と答えており、環境に問題がないと考えている学生は半数弱であった。
- 部活動参加者に対して「部活動に積極的に取り組んでいますか」と聞いたところ「そう思う」が23.3%、「まあそう思う」が38.2%であり、部活動参加者の6割強が積極的に取り組んでいることが分かった。
- 「部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか」という質問には「そう思う」が11.5%、「まあそう思う」が31.7%であり、合わせると43.2%がサポートが十分だという回答であった。

■部活動の現状に関して(1～3年生のみ)



■部活動参加者の現状評価(1～3年生、部活動参加者のみ)

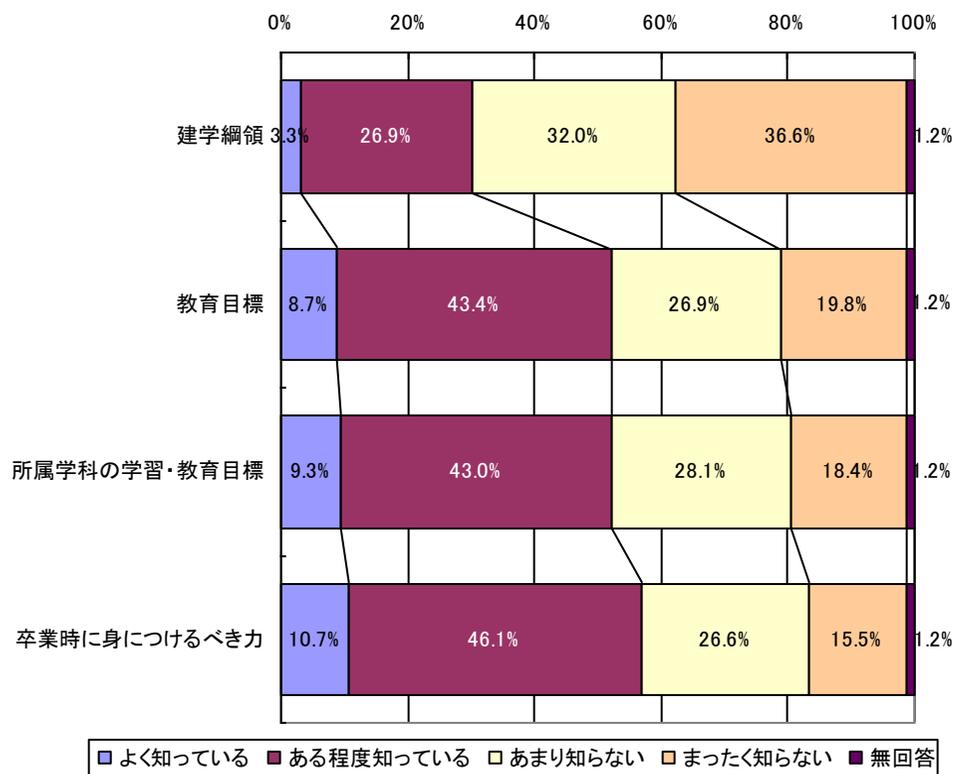


KTCの目的・目標に関して

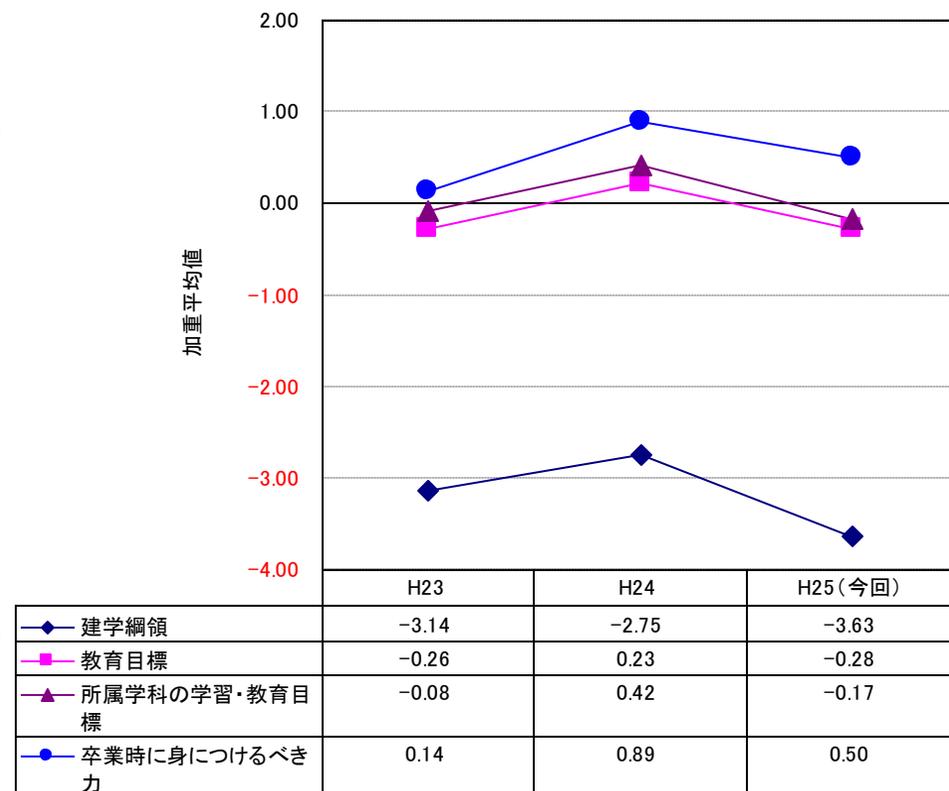
■KTCの目的・目標に対する意識

- 「建学綱領」に関して、「よく知っている」と「ある程度知っている」という回答を合わせると30.2%であり、全体の1/3程度となっていた。
- 他の3項目で知っているという意見を比べると、「教育目標」では52.1%、「所属学科の学習・教育目標」では52.3%、「卒業時に身につけるべき力」では56.8%であり、いずれの項目でも半数強が知っているという回答であった。
- 年度別比較は3年間の比較であるが、4項目ともに前回は下回っていた。そして、「建学綱領」「教育目標」「所属学科の学習・教育目標」はこれまでで最も低くなっており、特に「建学綱領」の低さが目立っていた。

■KTCの目的・目標に対する意識(在学生のみ)



■KTCの目的・目標に対する意識 年度別比較

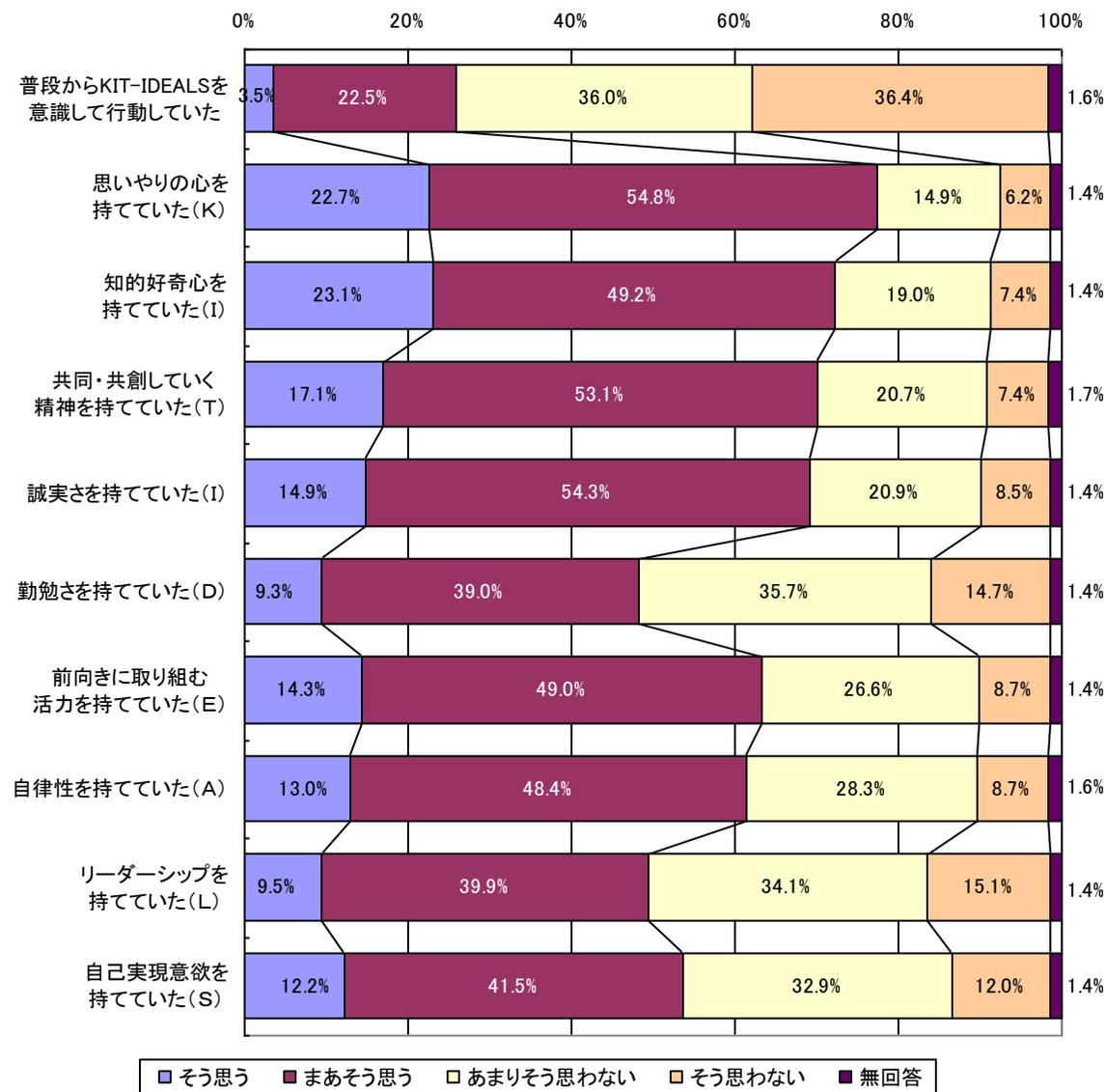


KIT-IDEALSに関して

■KIT-IDEALSに関して

- 「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」に対しては「そう思う」が3.5%、「まあそう思う」が22.5%であり、合計すると肯定的な意見は26.0%であった。
- KIT-IDEALSの各項目で肯定的な意見が最も多かったのは「思いやりの心を持っていた(K)」であり、77.5%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで「知的な好奇心を持っていた(I)」が72.3%、「共同・共創していく精神を持っていた(T)」が70.2%、「誠実さを持っていた(I)」が69.2%と続いていた。
- 肯定的な意見が最も少なかったのは「勤勉さを持っていた(D)」であり、肯定的な意見は48.3%であった。そして、「リーダーシップを持っていた(L)」が49.4%、「自己実現意欲を持っていた(S)」が53.7%と続いていた。

■KIT-IDEALSに関して(在学生のみ)

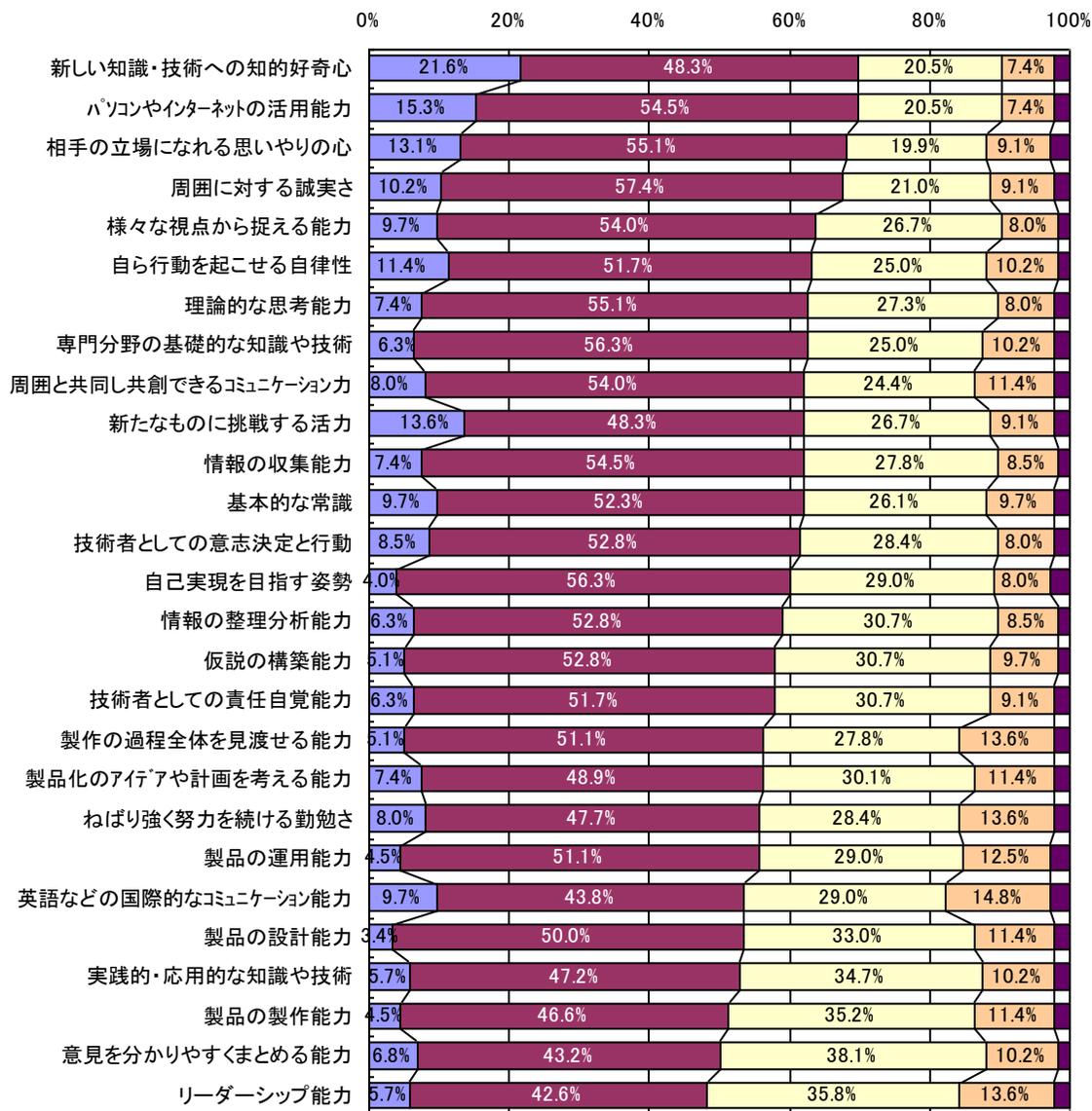


学生の能力に関して

■自分自身の能力の評価

- 「学生自身の現段階の自分自身の能力」に関しては、4年生と5年生の2学年だけに聞いている。
- グラフは「満たしている」と「少し満たしている」の合計で並び替えているが、肯定的な意見が最も多かったのは69.9%の「新しい知識・技術への知的好奇心」であった。
- 上記に続いて「パソコンやインターネットの活用能力」では69.8%、「相手の立場になれる思いやりの心」では68.2%、「周囲に対する誠実さ」では67.6%、「様々な視点から捉える能力」では63.7%であり、これらが学生が自信を持っている上位5項目となる。
- 一方、最も自信を持っていなかったのは「リーダーシップ能力」であり、肯定的な意見は42.6%と半数に至らなかった。そして、「意見を分かりやすくまとめる能力」(50.0%)、「製品の製作能力」(51.1%)が続いていた。

■学生が考える現段階の自分自身の能力(4年生、5年生のみ)

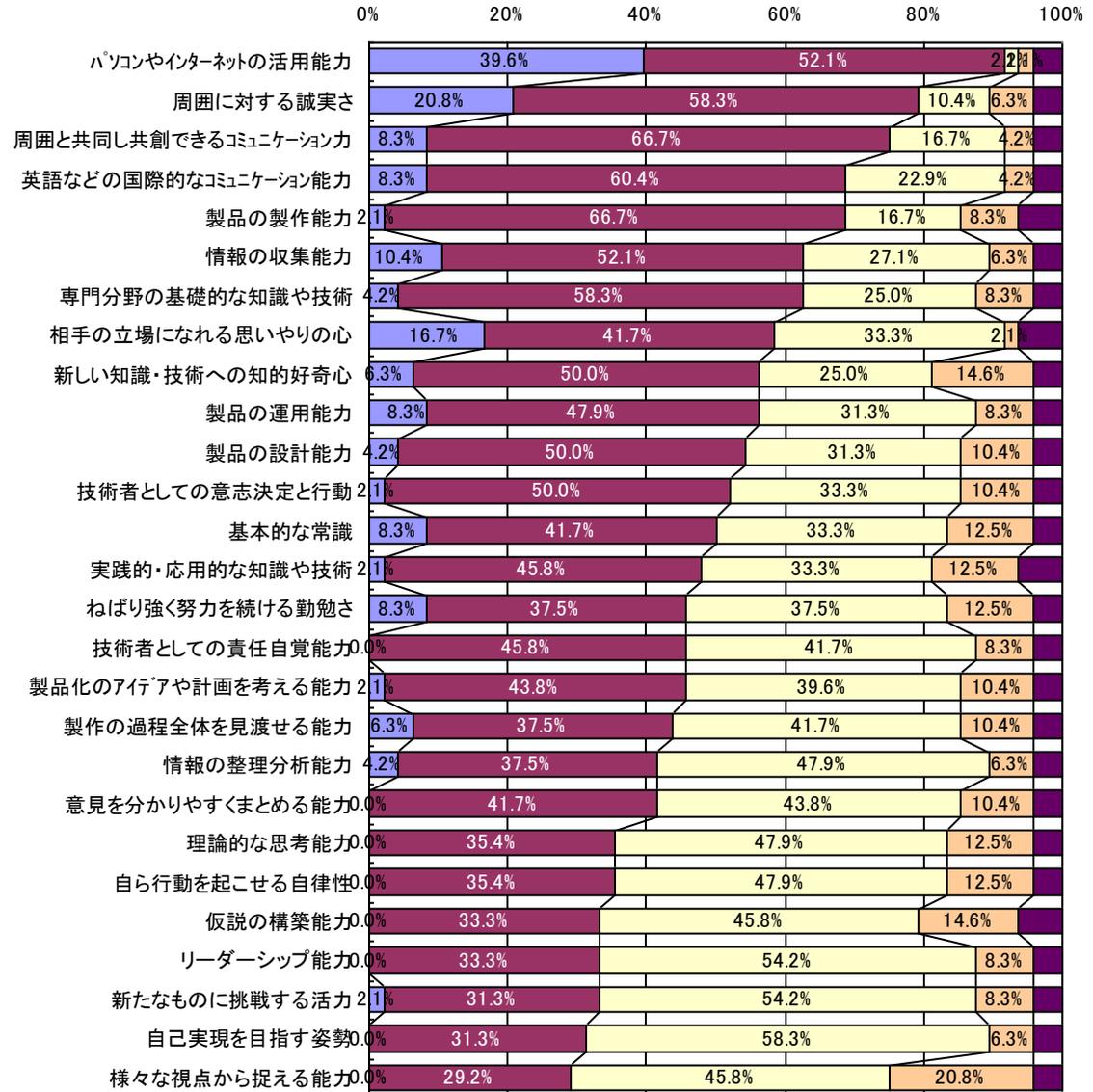


■ 満たしている ■ 少し満たしている □ あまり満たしていない □ 満たしていない ■ 無回答

■教職員による卒業生の能力の評価

- 教職員にも学生に対する項目と同じものを提示して「卒業生の卒業時の能力の評価」を聞いているが、評価が最も高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」であり、「満たしている」が39.6%と突出しており、91.7%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで「周囲に対する誠実さ」(79.1%)、「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」(75.0%)、「英語などの国際的なコミュニケーション能力」(68.8%)、「製品の製作能力」(68.8%)と続いていた。
- 一方、最も弱いと考えられていたのは「様々な視点から捉える能力」であり、肯定的な意見は29.2%であった。また、「自己実現を目指す姿勢」「新たなものに挑戦する活力」「リーダーシップ能力」「仮説の構築能力」なども低めであった。

■教職員による金沢高専卒業生の能力評価(教職員のみ)

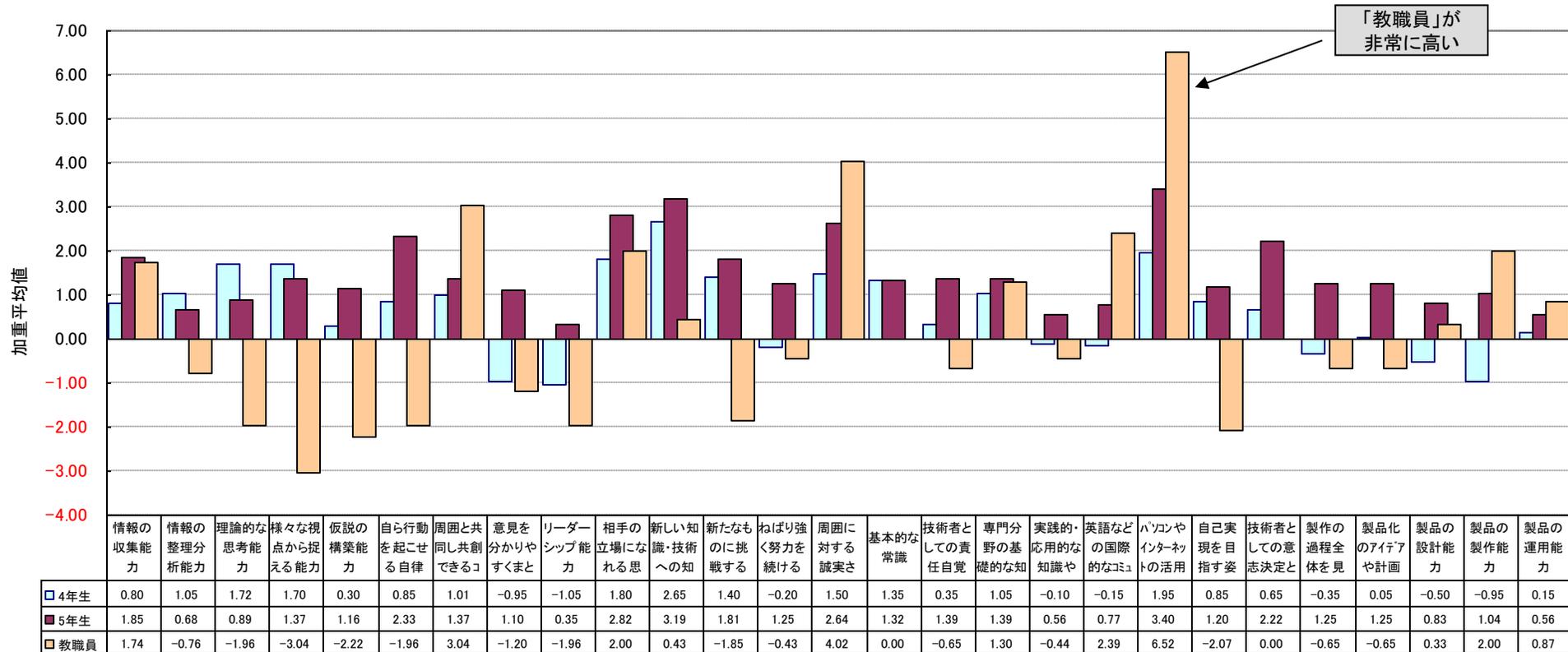


■ 満たしている ■ 少し満たしている □ あまり満たしていない □ 満たしていない ■ 無回答

■自分自身(学生)の能力評価の属性別比較

- 自分自身の能力に関して、学生の自己評価と教職員の卒業生評価を比較したところ、学生の自己評価はほとんどがプラスの評価であったが、教職員の卒業生評価は大きくプラスになったものとマイナスになったものがあり、評価が分かれていた。
- 「4年生」と「5年生」の差を見ると、全体的に「5年生」の方が高めであり、卒業を控えて自信を持っている様子がうかがえた。特に「意見をわかりやすくまとめる能力」と「製品の製作能力」などは「4年生」ではマイナススコアであったが「5年生」ではプラスに転じており、意識の変化が感じられた。
- 「教職員」は卒業生の「パソコンやインターネットの活用能力」を非常に高く評価していた。同様に「周囲と共同し共創できるコミュニケーション能力」「周囲に対する誠実さ」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「製品の製作能力」についても学生の評価を上回っていた。
- 一方、「様々な視点から捉える能力」「仮説の構築能力」「理論的な思考能力」「自ら行動を起こせる自律性」「新たなものに挑戦する活力」「自己実現を目指す姿勢」などを弱みと感じているようであった。

■KIT卒業生の能力 属性別の比較

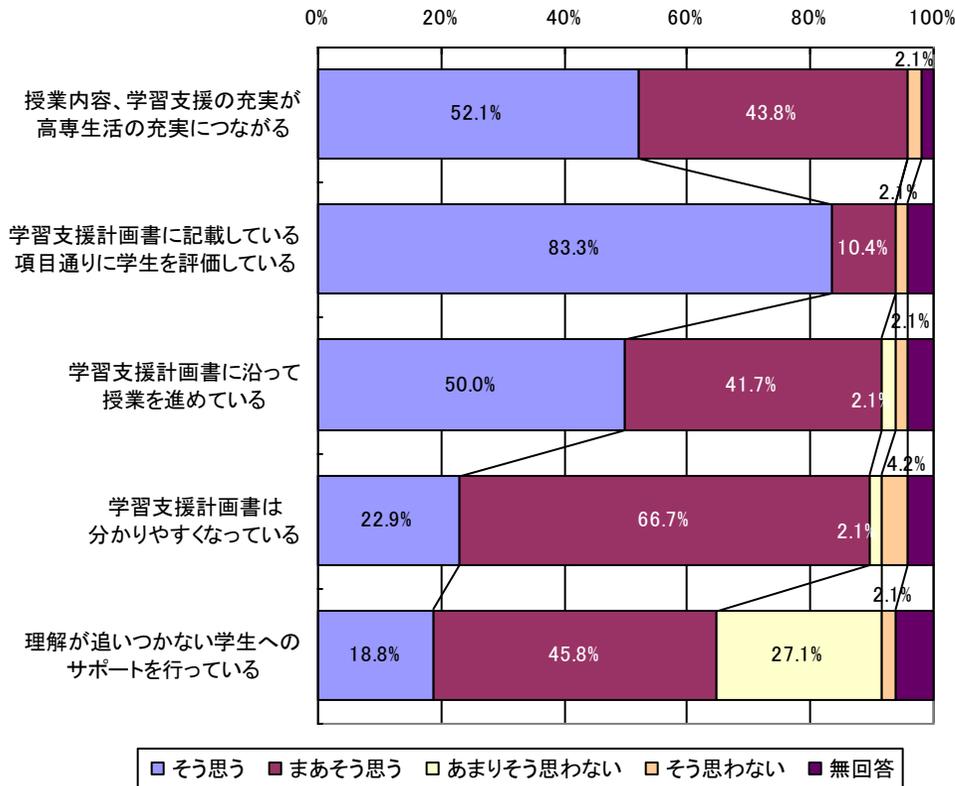


金沢高専の授業と教員業務に関して

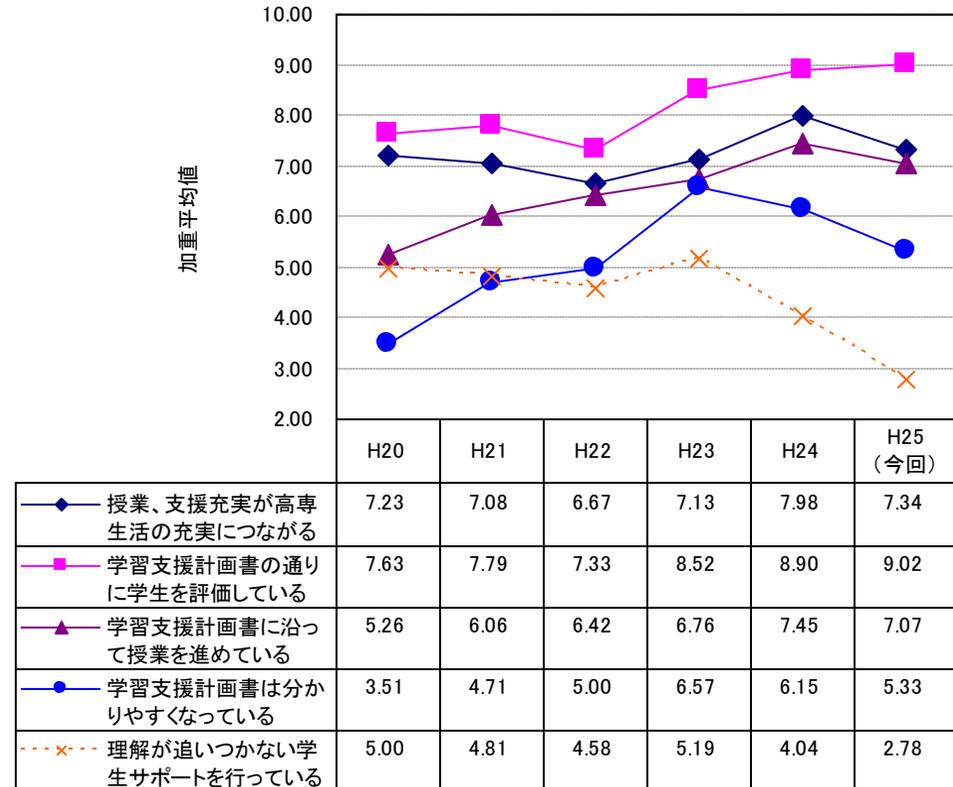
■教員の「授業および学習支援」の自己評価

- 教員に対し、「授業および学習支援」の自己評価を聞いた。「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」では、肯定的な意見が64.6%とやや少なかったが、その他の項目ではほぼ9割以上が肯定的な意見であった。
- 「そう思う」という回答だけで比較すると、「学習支援計画書に記載している項目通りに学生を評価している」で83.3%と非常に高く、この点は徹底されている様子がうかがえた。そして、「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」と「学習支援計画書に沿って授業を進めている」の2項目では5割を占めており、しっかりと対応されている様子がうかがえた。
- 年度別の比較では、「学習支援計画書に記載している項目通りに学生を評価している」だけは肯定的な意見が前回は上回っていたが、その他の項目では前回は下回る結果となっていた。特に「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」はH23から大きく低下してきており、今後の課題ではないかと思われる。また、「学習支援計画書はわかりやすくなっている」でもH23より肯定的な意見が減少してきていた。

■教員の「授業および学習支援」の自己評価



■教員の「授業および学習支援」の自己評価 年度別比較

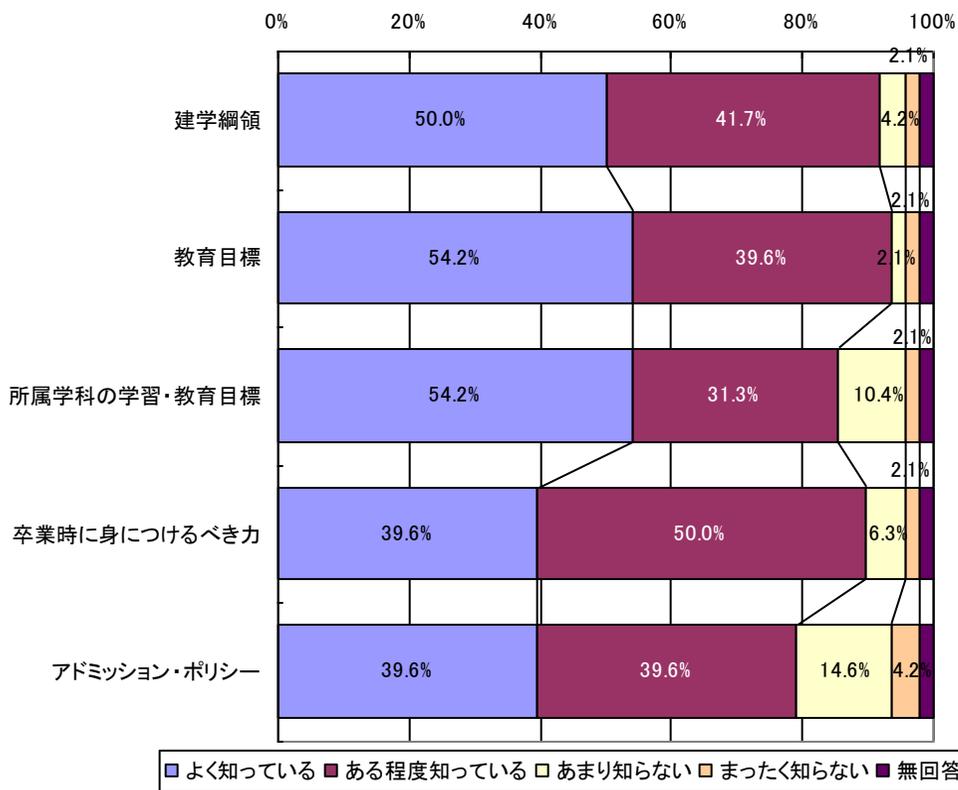


教職員の意識に関して

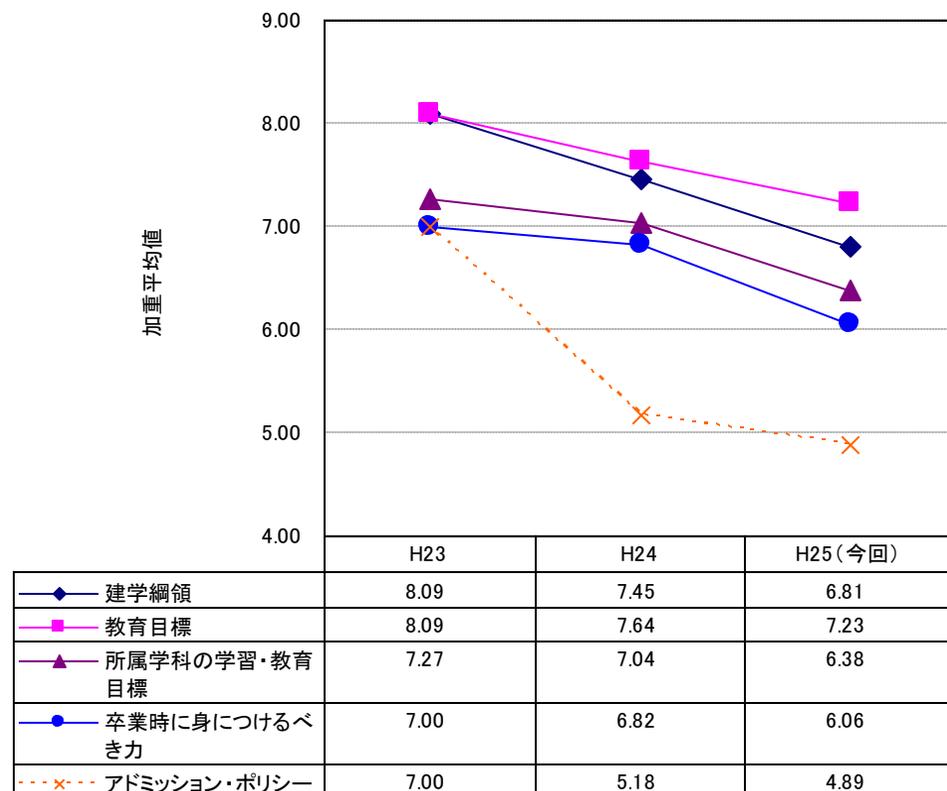
■教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識

- 教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識について、「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計で見たとところ、「建学綱領」(91.7%)と「教育目標」(93.8%)の2項目は9割を超える認知度であった。
- 上記以外の「所属学科の学習・教育目標」(85.5%)、「卒業時に身につけるべき力」(89.6%)、「アドミッション・ポリシー」(79.2%)の認知度はやや低かったものの、ほぼ8割以上が知っていると答えており、認知度が低いというわけではなかった。
- この質問はH23から聞いているが、すべての項目の認知度が継続的に低下している傾向が見られた。前回は「アドミッション・ポリシー」の低下が大きかったが、今回は目立った低下ではなく、いずれも同じような変化となっていた。

■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識(教職員)



■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識 年度別比較



<8-3> 全体の課題のまとめ

<学生の満足度や目的・目標意識に関して>

- ◆満足度は横ばいで常に35%前後はKTCに不満を感じている。
 - ◆「目的・目標なし」が増加しており、今回は6割弱が「目的・目標なし」と答えている。
- ◆「H24卒業生」や「現3年生」のように満足度が低下しない学生群もいるが、平均では「満足度」「目的・目標意識」のいずれも1年生から3年生で低下し、4年生から5年生で向上する傾向が見られる。

「H24卒業生」と「現3年生」の共通点は？

数値では「目的・目標」を持ってなくなっているが、本当か？

「モノづくり」の低下の実態は？

部活動の参加率、環境評価の低下の実態は？

<授業・学習サポートに関して>

- ◆授業に関する満足度は全体的に前回を下回っており、特に「モノづくり」など、KTCの特徴的なカリキュラムが低下していた。
- ◆授業以外に、学習支援や学生サポートなどの評価でも低下したものが目立っており、要因を探る必要があると思われる。
- ◆授業・学生サポートに対してはいずれも「1年生」の評価が非常に高く、色々な面に興味を持っている様子がうかがえる。この興味の高さを維持させる方策が必要だと思われる。

「目的・目標」意識をはじめとして、ほとんどの指標で前回を下回っており、危機感を持って改善に向かう必要があると思われる。

<学校での過ごし方に関して>

- ◆「1年生」は学校での過ごし方を見ても充実している様子が見られた。この状態を維持すること、何が低下させる要因になっているかを把握する必要がある。
 - ◆「クラスのまとめり」にも差が見られたが、この差が生まれる要因を探ることも必要だと思われる。
- ◆部活動の参加者は過去3年で最低であり、活動環境に対する不満も大きかった。部活動の環境に対する不満は教職員も持っており、現状把握と改善が必要なポイントであると思われる。

「1年生」は色々な面に興味を持って積極的に取り組んでいる。この積極性を維持させる方策を考えることが重要だと思われる。

数字では教職員の満足度が低下しているが、実態はどうか？

数値からは「電気電子」の「1年生」と「機械」の「3年生」が充実しているようであり、何らかのヒントがあるものと思われる。

<その他の環境に関して>

- ◆「就職・進学支援」に関しては、「決定した内容」に満足しているため、緊急性は低いと思われるが、決定までのフォローには課題があり、しっかりと不満要因を把握しておく必要があると思われる。
- ◆「電気電子」の学生は自身の能力に自信を持っており、「グローバル」の学生は「モノづくり」に関連する項目で自信を持っていないようであった。

<教職員の意見に関して>

- ◆教職員の4割強がKTCに不満を持っており、その割合は今までで最も多かった。
- ◆教職員の3割は業務内容に不満を持っており、色々な面で自己評価が前回より低下していた。
- ◆担任業務には時間を充てることができているが、その他の面の時間は減少しており、多忙な状態が続いているものと思われる。

平成25年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成26年6月19日
- 発行者 金沢工業高等専門学校
- 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
- 編集 金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁